

令和 7 年度
(令和 6 年度対象)

内子町教育委員会の点検・評価
報 告 書

令和 7 年 7 月
内子町教育委員会

目 次

◇ はじめに

1 趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2 点検評価の対象・・・・・・・・	1
3 点検評価の方法・・・・・・・・	1
4 点検評価結果の構成・・・・・・・・	1～2

◇ 教育委員会活動報告・・・・・・・・	4～5
---------------------	-----

◇ 施策・事業別評価表

<学校教育課>

社会を強くたくましく生きる力の養成	7～16
社会貢献を実現する人材の育成	17～19
安全、安心で充実した教育環境の構築	20～24
学校・家庭・地域が連携した教育の推進	25～26
特別支援教育の充実	27～28

<自治・学習課>

連帯と活力に満ちた自治センター・自治会活動の展開	29～30
多様な主体の協働によるコミュニティ活動の推進	
交流活動等を通じた多文化共生の推進	31
生涯学習社会の醸成	32
文化活動の促進と文化財の保護	33～35
読書活動の推進	36
社会体育の振興	37～38
人権・同和教育の深化充実	39～40
社会環境浄化と青少年の健全育成	41
社会教育の条件整備 自治センターの充実強化	42
社会教育の条件整備 図書館の整備充実	43

はじめに

1 趣旨

内子町教育委員会では、毎年「学校教育の方針と施策」、「社会教育の方針と目標」「人権・同和教育基本方針」を定め、教育と文化・スポーツの振興に努めております。

平成 19 年 6 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され（平成 20 年 4 月 1 日施行）、各教育委員会は、毎年、その教育行政の管理執行状況について自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされています。

そこで、本町教育委員会では、法の趣旨に則り、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民の皆様への説明責任を果たすため、「教育委員会の点検・評価」（以下「点検評価」という。）を実施し、報告書にまとめました。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検評価の対象

点検評価の対象は、本町教育委員会で定めている「学校教育の方針と施策」、「社会教育の方針と目標」「人権・同和教育基本方針」に位置付け実施した、令和 6 年度の主な施策・事業等としています。

3 点検評価の方法

点検評価にあたっては、施策・事業の進捗状況を明らかにするとともに、課題等を分析し、今後の対応方法を示します。

4 点検評価結果の構成

（1）主要施策

点検評価の対象は、「学校教育の方針と施策」、「社会教育の方針と目標」「人権・同和教育基本方針」に位置付けしている主要施策を基本とし、個別事業ごとに評価点検しています。

(2) 実施状況

①個別事業・施策名

個別の事業の目的を説明しています。

②施策・事業の実施状況及び効果

個別の事業・施策の実施状況及び事業の効果等を記載しています。

(3) 自己評価と課題・問題点

①自己評価

令和6年度の取組みの進捗状況などを踏まえ、教育委員会内の自己評価を行っています。

評価基準については、下記のとおりです。

A：事業は、順調に進んでいる。

B：事業は、概ね順調に進んでいる。

C：事業は、やや順調である。

D：事業は、順調ではない。

(4) 外部評価委員会委員の意見

内子町外部評価委員会委員の意見を掲載しています。

内子町外部評価委員会委員名簿

<令和7年7月1日～令和9年6月30日>

	氏 名	備 考
1	高倉 眞一	
2	山崎 浩二	
3	徳田 幸治	
4	井上 由加里	
5	岡田 康子	

◎外部評価委員会実績

令和7年7月14日 第1回委員会 出席委員 5名

令和7年7月31日 第2回委員会 出席委員 5名

教育委員会活動報告

1 教育委員会組織

○委員の就任状況

氏 名	役 職	摘 要	任期満了年月日
林 純司	教育長 R7.4.1就任	任期3年	R10.3.31
横田 光敏	教育長職務代理者	任期4年	R10.2.15
山田 清昭	教育委員	〃	R8.2.15
成田 尚哉	教育委員	〃	R9.2.15
大程 奈々絵	教育委員	〃	R11.2.15

2 教育委員会の会議等開催状況

(1) 会議

①令和6年度の会議開催状況（回数）

月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
定例会	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	11
臨時会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	2	12

②令和6年度の議案等の付議状況（件数）

月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
議案	4	3	1	5	2	0	1	0	0	3	3	21	43
専決処分	4	12	9	4	2	0	8	8	5	6	4	6	68
協議事項	1	3	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	8
計	14	11	10	11	4	0	10	11	8	5	6	14	104

3 その他の活動

(1) 委員研修会等への参加

○令和6年度南予管内市町等教育委員会連合会総会

日 時 令和6年6月13日（木）15：20～

場 所 愛南町役場 3階 大会議室

参加者 教育長 林 純司 職務代理者 横田光敏

○令和6年度内子町教育委員視察研修

期 間 令和6年6月27日（木）・28日（金）

場 所 大分県玖珠町教育委員会

参加者 教育長 林 純司 職務代理者 横田光敏

委員 山田清昭 委員 高松美栄子 委員 成田尚哉

○令和6年度愛媛県市町教育委員会連合会定期総会

日 時 令和6年7月19日（金）10：00～

場 所 新居浜市 レーイグラッツェふじ

参加者 教育長 林 純司 職務代理者 横田光敏

委員 山田清昭 委員 高松美栄子 委員 成田尚哉

○令和6年度南予管内市町等教育委員会連合会教育委員研修会

日 時 令和7年2月27日（木）14：00～

場 所 内子自治センター 多目的ホール

参加者 教育長 林 純司 職務代理者 横田光敏

委員 山田清昭 委員 成田尚哉 委員 大程奈々絵

(2)教育委員の学校訪問

教育委員が学校を直接訪問し、授業の様子、学校の現状や教職員の考え等を把握するとともに、教職員の町教委に対する要望等を聴取し、教育行政の充実に資することを目的として、毎年実施している。

日 時 令和7年1月20日（月）

場 所 （内子地区）内子小学校、内子幼稚園、内子中学校、石畳小学校

参加者 教育長 林 純司 職務代理者 横田光敏 委員 山田清昭

委員 高松美栄子 委員 成田尚哉

(3)総合教育会議

○第1回内子町総合教育会議

日 時 令和6年5月22日（水）

場 所 内子町役場本庁 4階 第3会議室

出席者 内子町長 小野植正久 教育長 林 純司 職務代理者 横田光敏

委員 山田清昭 委員 高松美栄子 委員 成田尚哉

協議事項 (1) 令和6年度の教育行政に係る方針と施策について
(2) 内子町の教育を取り巻く状況について
(3) その他

施策・事業別評価票

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		学校教育課					
主 要 施 策		社会を強くたくましく生きる力の養成					
個別事業・施策名		確かな学力を身につけるための教育方法の充実 (学力向上の推進)				事業 年度	6
事 業 区 分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行 状 況	当年度	予算額	3,483千円	決算額	3,190千円	執行率	91.6%
	前年度	予算額	4,173千円	決算額	3,369千円	執行率	80.7%
目 的		内子町内の小・中学校で学ぶ全ての児童生徒に、義務教育終了までに一定レベルの学力を身に付けさせ、夢や希望の実現に向けて挑戦する機会を保障することを目的とする。					
事業の実施状況		【学力向上委員会】 ・内子町教育研究所の教育委員会委託研究委員会。顧問は立川小学校山本孝江校長、各小・中学校の学力向上推進主任が委員。年間3回実施した。 ・令和6年度標準学力検査（東京書籍）の町全体の結果を分析して課題を共有するとともに、各小・中学校の実態に即して課題を分析した。 ・第5期学力向上推進プランの推進。 【学習教室「学び舎」の開設】 ・放課後学習のサポートとして、町内小中学校8校で実施。それぞれ学習サポーター1～9名を派遣。週2日程度、1日当たり60分～120分、年間18～68日実施。 ◇費用 報償費 1,290千円 【学力向上セミナー】 ・全教員対象に、松山市から講師を迎え、学力向上セミナーを開催した。8/5 【英語検定料補助金交付事業】 ・314名の申請があり、5級から2級まで英語検定を受検した。全体の受験率は84.2%、合格率は64.3%であった。 ◇費用 補助金 1,115千円 【町全体の学力調査の実施】 ・小学1～6年生と中学1、2年生で「標準学力検査（東京書籍）」の国語と算数・数学を3学期に実施し、一人一人の学力の定着度と、指導目標の実現状況を把握し、成果と課題を明らかにして指導の改善・充実に役立てた。中学3年生は実力テスト（国語・数学、1回分）を町費負担とし、進路指導に役立てた。 ◇費用 委託料 649千円（検査用紙、採点、分析）					
事業の効果等		町全体として、「第5期内子町学力向上推進プラン」に基づいた具体的な取組を行った。「学力向上セミナー」を開催し、「これからの学力と授業づくり」をテーマに日々の実践の重要性について研修を行った。 ・学習教室「学び舎」は、小学校6校・中学校2校の8校で実施した。 ・英語検定料補助金交付事業の実施により、中学生の英検受験率（84.9%⇒84.5%）と、合格率（64.6%⇒64.3%）は、ともに前年度と同程度の結果となった。					
自 己 評 価		B					
課 題 ・ 問 題 点		全国学力・学習状況調査（小学校6年生、中学校3年生）、愛媛県学力診断調査、町で実施している標準学力調査により分析し、基礎・基本の定着については、一定の成果が得られているが、情報の収集、内容の検討、比較し分析する力には課題がみられ、思考過程を明らかにする授業改善をととした取組を推進する必要がある。 新たに策定した「第5期内子町学力向上推進プラン（令和6～8年度）」に基づき、「授業改善・ふるさと教育・豊かな学び」をキーワードとし、信頼関係を基盤とした町内が一体となった取組を推進していきたい。					
外 部 評 価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		学校教育課					
主 要 施 策		社会を強くたくましく生きる力の養成					
個別事業・施策名		教員の資質能力の向上 (教育研究所活動の充実)				事業 年度	6
事 業 区 分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行 状 況	当年度	予算額	980千円	決算額	863千円	執行率	88.1%
	前年度	予算額	800千円	決算額	640千円	執行率	80.0%
目 的		教育上の諸問題について各保・幼・小・中の教職員が情報交換を行うことによって共通の認識を持った中で、各教科・教科外委員会で研究発表・研修会を実施し、教育の充実・進展を図る。					
事業の実施状況		教育研究所は、町内の保育園・幼稚園・小学校・中学校の教職員（221名）で構成しており、毎学期に開催する運営委員会（13名）で総会・指定校発表・研究大会等の運営をしている。組織として、研修部に教科等委員会（国語他12委員会）、教科外委員会（学校図書館他6委員会）、専門部8つで構成している。毎年、各学校の指導力向上等を図るため研究指定校を選び、研究発表を行っている。 ①研究指定校・・・内子ブロック研究発表 (内子中学校、石畳小学校、内子小学校、立川小学校) 〈研究主題〉「自分の考えを主体的に伝え合う児童・生徒の育成」 (R6.11.6開催) ②研究大会 (R7.2.18開催) 〈実践報告〉 (1)「主体的に学び合う児童の自立の心の育成 ～関わりをよりよい生き方につなげる道德教育～」 報告者 天神小学校 教諭 谷水由紀子 〈講演〉 「子どもたちの未来を輝かせるために～幸せの種をまこう」と題し、食文化・料理研究家／作曲家の中村和憲氏に講演をいただいた。 ③教科等委員会、教科外委員会、専門部それぞれの各委員会にて随時活動。					
事業の効果等		各委員会で研修会を企画し、それぞれの分野で教職員の資質能力の向上を図ることができている。また、指定校の発表では内子ブロックでの研究報告が行われ、オンラインで会場校以外も参加し、意義のある会議となった。 各学校がそれぞれのテーマで組織的に研究を進めることにより、これまでの取組を振り返るきっかけになるとともに、大きな成果を収めている。					
自 己 評 価		B					
課 題 ・ 問 題 点		研究指定校での取り組みについて、町内全地区での取り組み後の新たな研究体制（推進体制）について、6年度中に体制の見直しを図り、新たな研究体制の下、7年度から取り組んでいく。					
外 部 評 価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載 (A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない)

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		学校教育課					
主 要 施 策		社会を強くたくましく生きる力の養成					
個別事業・施策名		豊かな心の育成 (いじめ事案への取り組みの強化)				事業 年度	6
事 業 区 分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行 状 況	当年度	予算額	406千円	決算額	80千円	執行率	19.7%
	前年度	予算額	388千円	決算額	92千円	執行率	23.7%
目 的		町内の学校で発生したいじめ事案について、事実の調査、検証を行い、再発防止に向けた提案により児童・生徒がいじめのない楽しい学校生活を送れるようにすることを目的とする。					
事業の実施状況		・小・中学校生徒指導研修会を3回実施した。(7/16, 12/17, 3/13) ・うちこいじめSTOP会議をオンラインにより各教室をつないで開催し、町内全小学校5年生児童、中学校3年生生徒が参加した。(11/14) ・いじめ問題対策連絡協議会を2回開催した。(10/25, 3/14) ・大洲人権擁護委員協議会の協力により「子ども人権SOSミニレター」を配付した。 ・SNS(LINE)を活用したいじめ相談窓口の周知を行った。(QRコード付きチラシ等配付) ※県内の全児童生徒等を対象。名称「いじめほっとLINE」 ・県内一斉ライブ授業「えひめいじめSTOP! デイplus」に町内全小・中学校がサテライト校として小学校6年生と中学校1年生が参加した。(11/21) ・内子の人権を守るアンケートを2回実施した。(前期: 9/24~10/8、後期: 2/17~3/5)					
事業の効果等		いじめ問題対策連絡協議会において関係機関との連携強化を図ることが出来ている。今年度も、うちこいじめSTOP会議をオンラインにより開催し、児童生徒がインターネット上のいじめ防止について意見交換を行った。また、内子の人権を守るアンケートを実施し、未然防止や迅速な初期対応につなげた。					
自 己 評 価		B					
課 題 ・ 問 題 点		町の「内子町いじめ防止基本方針」、各小・中学校の「いじめ防止基本方針」に沿って、いじめの未然防止と重大事態に至らないよう早期発見、丁寧な初期対応を重視し取り組んできた。各校で教育相談やアンケートの活用など工夫した取組が見られた。 さらに、いじめは大人が気付きにくい場所や形で行われることもあり、常に学校、教育委員会、家庭、地域で共通理解を図り、取り組む必要がある。特に、SNS等ネット利用によるいじめへの対応が今後の課題となっている。見えない場所でのいじめ事象に対する実態把握、早期発見について研修を進めていきたい。					
外 部 評 価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載 (A: 順調である B: 概ね順調である C: やや順調である D: 順調でない)

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		学校教育課					
主 要 施 策		社会を強くたくましく生きる力の養成					
個別事業・施策名		豊かな心の育成（ふれあいルーム・スクールソーシャルワーカー活用事業等）				事業年度	6
事業区分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行状況	当年度	予算額	4,250千円	決算額	3,766千円	執行率	88.6%
	前年度	予算額	5,740千円	決算額	4,826千円	執行率	84.1%
目 的		教育上特別な支援の必要な児童・生徒の諸問題へ対処するため、社会福祉等の専門的な知識を持った専門家を配置して、児童・生徒や保護者等の相談に応えていく。また関係機関等とのネットワークを活用して問題を抱える児童・生徒の支援を行う。					
事業の実施状況		スクールソーシャルワーカーには、元教員を会計年度任用職員として1名任用している。 ふれあいルームについては、指導員に元教員、元養護教諭の3名を会計年度任用職員として任用し、五十崎自治センター内で「内子ふれあいルーム(教育支援センター)」活動を行っている。 基本的には学習支援・SST（ソーシャルスキルトレーニング）・相談業務であるが、内容に応じて学校・家庭・施設等を巡回訪問している。 ◇スクールソーシャルワーカー報償費：578,160円（※県補助金220,000円） ・年間活動日数・・・教室：90日 ・研修参加（自主研修含）：1回 ・相談内容・・・不登校、発達障がい等に関する問題等 ◇ふれあいルーム指導員報償費：2,693,262円、費用弁償：32,530円、消耗品費：49,420円、電話代：58,833円、タクシー等借上げ：53,460円 ・ふれあいルーム在籍児童生徒数：11人 ・大洲ふれあいスクールとの交流事業 負担金：300,000円					
事業の効果等		SSWの活動とふれあいルームでの支援により、問題を抱える児童・生徒に対して、相談業務・学習支援を実施している。 家庭等への働きかけや教職員等との情報交換により、集団生活への適応と学校生活への回復に向けて支援を行っている。 ふれあいルームには専用の電話があり相談や連絡ができやすい環境が整っている。また、パソコンや教材等、学習に必要な物を設置することで学習意欲向上や学習補填を図っている。					
自己評価		B					
課題・問題点		子ども達を取り巻く環境は、年々、複雑化・困難化してきており、子どもの支援のみならず保護者への支援や連携が必要なケースが多くなってきている。 今後も関係機関と連携をとりながら、個々に応じた支援や情報提供などを行っていく必要がある。					
外部評価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		学校教育課					
主 要 施 策		社会を強くたくましく生きる力の養成					
個別事業・施策名		豊かな心の育成（ハートなんでも相談員、スクールカウンセラー配置事業）				事業年度	6
事 業 区 分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行状況	当年度	予算額	840千円	決算額	840千円	執行率	100.0%
	前年度	予算額	840千円	決算額	840千円	執行率	100.0%
目 的		町内小中学校において、児童・生徒、保護者等が持っている不安等の相談を受ける相談員（ハートなんでも相談員、スクールカウンセラー）を配置している。これによって、いじめ、不登校、体罰等の未然防止、又は早期の発見及び迅速な解決を目的とする。					
事業の実施状況		ハートなんでも相談員は、教職経験者等３名に委嘱しており、配置校は内子小学校・天神小学校・小田中学校の３校である。 ①活動形態及び活動日・活動時間 原則設置された学校において活動している。 ・内子小・・・70日/年、280時間（１日当たり４時間程度） ・天神小・・・70日/年、280時間（　　　　　〃　　　　　） ・小田中・・・70日/年、280時間（　　　　　〃　　　　　） ②内容 各学校とも給食時、昼休み時間等を利用し、児童・生徒との教育相談を実施している。また、参観日には、保護者への声かけも実施している。 今後ますます、きめ細やかな支援が必要となってくる。					
事業の効果等		給食を一緒に食べたり休み時間に声掛けするなどして信頼関係を構築し、児童・生徒が相談しやすい環境を作っている。担任と連絡を取り合いながら、児童・生徒の悩み解消に努め、安心して楽しい学校生活が送れるよう支援することができた。また、PTA総会で活動について周知したことで、教職員や保護者の相談にも対応することができた。					
自己評価		B					
課題・問題点		活動時間が週２日４時間程度しかないため時間的制約はあるが、教育活動に参加することで子供たちとの距離を縮めている。教職員からの相談は増えているが、保護者の相談は少ない。 また、相談員同士での情報交換会を年１回以上行うこととし、実行した。					
外部評価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		学校教育課					
主 要 施 策		社会を強くたくましく生きる力の養成					
個別事業・施策名		健やかな体の育成 (部活動地域移行の推進)				事業 年度	6
事 業 区 分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行 状 況	当年度	予算額	7,738千円	決算額	7,061千円	執行率	91.3%
	前年度	予算額	1,443千円	決算額	1,196千円	執行率	82.9%
目 的		学校と保護者、地域各種団体が協議を進めることにより、部活動の地域移行を進めながら、よりよいスポーツ・文化芸術活動を継続する方策を探る。地域移行第1期として、拠点校部活動を設定し、子どもたちの活動の選択肢を広げ、教員の業務改善を進める。					
事業の実施状況		【部活動地域移行推進連絡協議会】 ・学校、PTA、各種団体から組織された協議会を設置し、部活動地域移行の方策について年6回協議した。それぞれの立場から具体的な意見が交わされ、様々な課題克服のための方策が検討された。 ・総合型地域クラブや、地域移行について先進地である熊本県への視察研修を行った。現場の具体的な状況や、活動を維持させるために必要なことについて等、たくさんのことを学ぶ有意義な機会となった。 【拠点校部活動】 ・中学校4校が協力体制を取りながら、拠点校部活動を導入した。各学校の行事や校時を揃え、拠点校への移動はスクールバスを運行している。 ・部活動の選択肢が増え、生徒は充実した活動を行っている。また、他校の生徒との交流もあり、活性化につながっている。 ・新設した部活動を中心に、地域の指導者が指導する体制が進んだ。今後、全ての部活動に対して、地域の人材を生かした取組を進める予定である。 ・部活動を整理する中で、得意な部活動の指導に協力するなど、徐々に教員の負担軽減につながっている。 【備品・消耗品】 ・部活動で使用する備品や消耗品を購入するための費用を一部負担した。拠点校部活動を導入することにより、学校内で負担できない費用について補助することができた。					
事業の効果等		令和6年度から拠点校部活動を導入し、今までの部活動から徐々に移行する取組を行った。新入生については、年度当初から様々な部活動を選択できるように募集することができた。部員数の状況により、部活動を整理し、合同チームとしての大会出場につながる部活動もあった。 仕組みが変化する中で負担はありながらも、今までの活動を維持できるよう様々な工夫を講じている。					
自 己 評 価		B					
課 題 ・ 問 題 点		学校間の連携のための情報伝達・情報共有の方法等一つ一つ確認が必要である。組織の連携について、さらに工夫した取組を行う必要がある。 部活動地域移行推進連絡協議会を継続し、地域クラブ活動に移行するための様々な方策を検討する必要がある。 各関係団体が協力しながら、教員の負担軽減と共に地域のスポーツ・文化芸術活動の活性化につながる連携の在り方を模索していきたい。					
外 部 評 価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載 (A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない)

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		学校教育課					
主 要 施 策		社会を強くたくましく生きる力の養成					
個別事業・施策名		健やかな体の育成 (学校給食 内子学校給食センター)				事業 年度	6
事 業 区 分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行 状 況	当年度	予算額	98,429千円	決算額	95,590千円	執行率	97.1%
	前年度	予算額	92,064千円	決算額	90,116千円	執行率	97.9%
目 的		子どもたちの心身の健全なる発達のために、バランスのとれた栄養豊かな給食を提供する。 地元で生産された新鮮な農産物を使用することで、食育の推進、地域農業の振興、地域経済の活性化を図る。					
事業の実施状況		【学校給食運営事業】 学校給食法に基づき、令和6年度は、正職調理員5名、臨時運転手2名、臨時調理員16名（休暇取得補充調理員5名含む）で、中学校2校、小学校5校、幼稚園1園の計8ヶ所、1,029食の学校給食を実施し、子どもたちの心身の健康な発達に資している。 社会情勢の変化に伴う食材費の値上がりに対処し、学校給食費補助金（16,619千円）を交付した。（①物価高騰対策：「50円/食」7,893千円、②地産地消推進：「50円/食」8,726千円） 【地産地消の活用】 内子町内、愛媛県内など地元で生産された安全で新鮮な農産物を消費することで、児童生徒の健康増進、地域農業の振興、地域経済の活性化を図っている。 【食物アレルギー対応】 アレルギー対応が必要な児童・生徒19名に対して、除去食・代替食を提供した。 【整備状況】 食缶洗浄機購入 11,660千円 冷蔵ユニット購入 990千円					
事業の効果等		地産地消については、野菜果物等は、からりをはじめ納入業者と連携を行ったが、内子産野菜類の使用実績は重量ベースで39.9%となり、前年度実績（53.1%）を下回った。全国的な野菜の不作により安定した地元野菜の納入が困難でしたが、できるだけ地元で生産された新鮮な農産物を使用することで、食育の推進、地域農業の振興につなげていく。					
自 己 評 価		B					
課 題 ・ 問 題 点		学校給食における食物アレルギー事故防止のため、各学校と連携し、事務処理手順の徹底と再発防止に努め、安全で安心な学校給食の提供に取り組んでいく。 厨房機器及び洗浄システムの老朽化が進んできているため、不良個所の早期発見に努め、事故防止及び衛生管理の徹底に繋げる必要がある。					
外 部 評 価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		学校教育課											
主 要 施 策		社会を強くたくましく生きる力の養成											
個別事業・施策名		健やかな体の育成 (学校給食 小田学校給食センター)				事業 年度	6						
事 業 区 分		町単独事業		国県支出事業		その他							
予算執行 状 況	当年度	予算額	29,474千円	決算額	22,085千円	執行率	74.9%						
	前年度	予算額	30,518千円	決算額	30,365千円	執行率	99.5%						
目 的		学校給食法に基づき、成長期の子どもたちの健康な身体をつくるために必要な栄養価・食品のバランスのとれた給食を提供する。 地元で生産された新鮮な農産物を使用することで、食育の推進、地域農業の振興、地域経済の活性化を図る。											
事業の実施状況		【学校給食運営事業】 学校給食法に基づき、令和6年度は、正職調理員2名、臨時調理員2名及びパート3名で、中学校2校、小学校2校、幼稚園1園、小田分校（寮生及び寮生以外の希望者）の計6ヶ所、約250食の学校給食を提供し、子どもたちの心身の健康な発達に資している。 社会情勢の変化に伴う食材費の値上がりに対処し、学校給食費補助金（50円／食、幼小中学校の児童・生徒のみ対象）742千円を交付した。 【地産地消の推進】 食材の納入業者である「せせらぎ、からり」と連携し、地元で生産された安全で新鮮な農産物を消費することで、児童生徒の健康増進、地域農業の振興、地域経済の活性化を図っている。 内子町産の食材を活用した給食の提供に対し、地産地消推進事業補助金（50円／食、全員対象）2,249千円を交付した。 【食物アレルギー対応】 アレルギー対応食を希望する児童・生徒3名に対して除去食を提供した。 【整備状況】 <table border="0"> <tr> <td>各種給食用食器及びデジタル台秤購入</td> <td>1,018千円</td> </tr> <tr> <td>パススルー冷蔵庫1台、プレハブ冷蔵庫機器一式購入</td> <td>1,535千円</td> </tr> <tr> <td>浄化槽チェッカープレート等取替工事</td> <td>1,033千円</td> </tr> </table>						各種給食用食器及びデジタル台秤購入	1,018千円	パススルー冷蔵庫1台、プレハブ冷蔵庫機器一式購入	1,535千円	浄化槽チェッカープレート等取替工事	1,033千円
各種給食用食器及びデジタル台秤購入	1,018千円												
パススルー冷蔵庫1台、プレハブ冷蔵庫機器一式購入	1,535千円												
浄化槽チェッカープレート等取替工事	1,033千円												
事業の効果等		安心安全な給食を安定的に提供することができた。 地産地消については、米は基本内子産で賄い、野菜果物等は、せせらぎ、からりなどと連携を行うことで、内子産野菜類の使用実績は重量ベースで63.1%（R5実績49.8%）となっている。											
自己評価		B											
課題・問題点		学校給食における食物アレルギー事故防止のため、各学校と連携し、事務処理手順の徹底と再発防止に努め、安全で安心な学校給食の提供に取り組んでいく。 調理員の高齢化に伴い、計画的な採用並びに共同調理場の環境改善に取り組んでいくことが急務である。また厨房機器については、順次更新を行っているが、老朽化による急な故障等も増えており、今後も、不良箇所の早期発見に努め、事故防止及び衛生管理の徹底を図っていく必要がある。											
外部評価		B	<コメント> 継続										

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		学校教育課					
主 要 施 策		社会を強くたくましく生きる力の養成					
個別事業・施策名		特色ある教育の推進 (ふるさと教育 総合的な学習の時間)				事業 年度	6
事 業 区 分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行 状 況	当年度	予算額	1,100千円	決算額	1,100千円	執行率	100.0%
	前年度	予算額	1,100千円	決算額	1,100千円	執行率	100.0%
目 的		「総合的な学習の時間」を委託事業とし、町内の各小・中学校（11校）を対象に、それぞれ学校の伝統や校風、地域の実情に応じた創意工夫ある教育活動を実施し、魅力ある学校づくり・特色ある学校づくりを進める。そして、これらの活動を通して心豊かでたくましく生きる児童・生徒の育成を図る。					
事業の実施状況		各小・中学校に事業予算として1,100千円（11校分）を配分している。その予算でそれぞれ小・中学校が各学年ごとに年間実施計画を立て、工夫を凝らし特色のある授業を進めている。本年度も、各学校が「総合的な学習の時間」（小学校3年から年間70時間。ただし、中学1年は50時間）を使って実施。 【地域との交流学习】 （内子町を知ろう）（昔の内子町を知ろう）（地域の特産品調べ）等 【地域の歴史・文化・未来・産業】 （内子の町並み探検、手すき和紙による卒業証書づくり、伝統の凧づくり、地域の偉人調べ、地域の未来を考える、地域の食文化、山城について調べる、地域の安全と福祉）等 【環境学習】 （内子の自然の調査、内子のエコ活動調査、林業の学習、小田川の水生物調査、バイオマス発電の学習、ドイツのごみ処理、下水、上水施設の学習、プラスチックごみ問題） 【人権学習】 （人権集会、人権劇、平和学習、バリアフリー、ユニバーサルデザイン）等 【体験学習】 （稲作、サツマイモづくり等、ボランティア体験、農業（果樹）体験、小田深山）等 【国際理解】 （CIR・ALTを招き日本文化・外国文化のそれぞれの良さを発見、国際理解、外国語によるコミュニケーション）					
事業の効果等		GIGAスクール端末のタブレットを活用している。教室だけの勉強ではなく、地域に積極的に出かけていくことによって、地域の歴史・文化・産業・風土・伝統芸能等への興味を持つきっかけ作りとなり、地域に学び、地域に生き、郷土を愛する心を育て、地域で働くことの魅力を実感できるとともに、ふるさと内子大切に思う子どもが育っている。また、探究的な学習ができ、一人ひとりの学びが深まってきている。小学校では、CIR・ALTによる外国語に親しむ取組を強めている。その他、児童・生徒と触れあう機会として地域の方々に期待されている。					
自 己 評 価		B					
課 題 ・ 問 題 点		地域の方にゲストティーチャーとして協力いただいていることには感謝しており、今後も継続的にお願いしたいとともに、訪問先の施設の方々にも学習の意図を理解していただき、協力していただくことが必要である。 また、地域の人から教わったり地域特有の体験をしたりすることで、故郷の良さを再認識し、故郷への愛着を深め、更にもっと知りたいという欲求や、外に向けて発信する意欲もある。今後は、故郷の未来についても考えていけるよう、継続的に取り組んでいきたい。					
外 部 評 価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		学校教育課					
主 要 施 策		社会を強くたくましく生きる力の養成					
個別事業・施策名		確かな学力を身につけさせるための教育方法の充実（GIGAスクール構想の推進）				事業年度	6
事業区分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行状況	当年度	予算額	14,031千円	決算額	12,444千円	執行率	88.7%
	前年度	予算額	20,096千円	決算額	19,776千円	執行率	98.4%
目 的		複雑で予測困難な社会を生き抜くための確かな学力を身につけさせるため、国策として推進するGIGAスクール構想に基づき、子どもたち一人一人に個別最適化され創造性を育むことができる教育ICTを推進する。					
事業の実施状況		町内小中学校に整備した教育用ネットワークのWi-Fiと一人一台端末を活用した教育推進のための取り組みを行った。 【授業支援ソフトの導入】 ICT機器を活用した授業の円滑な運営のために、授業支援ソフトとして「ロイロノート」を導入した。 【ICT支援員業務委託】 1,320千円 学校現場でのICT機器等の活用をサポートするため、各種設定作業やマニュアル作成、研修の実施等を行った。 【研修会の開催】 GIGAスクール端末及びGoogleの各種アプリケーションの活用促進のため、使用方法等の研修会を開催した。 実施回数：1回 受講者数：16名 【その他】 ロイロノート研修会（オンライン） 講 師：株式会社Loilo 受講内容：ロイロノートの基本的な利活用方法について 受講者数：54名					
事業の効果等		GIGAスクール端末及び各種アプリケーションの活用促進のための基礎知識を醸成できた。					
自己評価		B					
課題・問題点		・教員のICT機器を活用した授業運営スキルの向上 ・GIGAスクール端末等を活用した好事例の蓄積・共有 ・児童生徒のICT活用力及び情報モラルの向上 ・GIGAスクール環境の計画的な更改					
外部評価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		学校教育課					
主 要 施 策		社会貢献を実現する子どもたちの育成					
個別事業・施策名		優れた才能や個性を伸ばす学習機会の提供 (外国語活動の推進)				事業 年度	6
事 業 区 分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行 状 況	当年度	予算額	853千円	決算額	749千円	執行率	87.8%
	前年度	予算額	615千円	決算額	509千円	執行率	82.8%
目 的		英語力の向上を図りながら国際理解を深め、コミュニケーション能力を高めて、国際性豊かでグローバルな視野を持った青少年を育成する。					
事業の実施状況		【小学校外国語活動支援事業】 ○指 定 校：五十崎小学校 ○講 師 等：関西外国語大学 直山木綿子教授、大阪樟蔭女子大学 兼重昇教授、南予教育事務所 中村慎吾指導主事 ○研究発表：五十崎小学校にて実施 ○謝金45,000円、旅費115,130円 【中学校英語弁論大会】 ○会 場：内子町共生館 ○司会者校：五十崎中学校 ○選 手：9名（優勝：五十崎中学校3年女子） ○審査員長：愛媛大学 三浦優生准教授 ○謝金20,000円、旅費8,925円、生徒移送バス借上料157,850円 ○保一・好子賞 補助金377,060円 通訳者旅費250,000円					
事業の効果等		【小学校外国語活動支援事業】 五十崎小学校を推進校として指定し、外国語の言語活動を通した友達とのかかわり方などについての研究を行った。研究発表会については、学級担任が研究授業を行い、町内の小中学校で研究成果を共有した。関西外国語大学 直山木綿子教授（元文部科学省初等中等教育局視学官）、大阪樟蔭女子大学 兼重昇教授、南予教育事務所 中村慎吾指導主事を講師として、小学校での外国語教授法などについての研修を深め、教員の外国語指導力向上や小・中連携に寄与した。 【中学校英語弁論大会】 英語弁論大会については、英語への関心が高まり、英語学習への意欲向上につながっている。新学習指導要領では「話すこと」について従来の「やりとり」の他に「発表（スピーチ）」も必要となってきており、弁論大会の担う役割は大きくなっている。 令和6年度は青少年海外派遣事業が5年ぶりに実施され、令和4年度及び令和5年度の優勝者に保一・好子賞として青少年海外派遣事業の自己負担額分の補助を行った。					
自 己 評 価		B					
課 題 ・ 問 題 点		新学習指導要領に基づく小学校での英語指導が定着してきた。小学校での英語指導力の課題への対応は、英語専科の教員による指導や、小規模校においては中学校英語教員の参加などの工夫がみられる。しかしながら、ALTの効果的な活用については、引き続き課題であるため、継続的に研修を実施していく。 今後、英語教育における小中の連携がますます重要になっている。外国語活動推進校の研究課題に小中連携を入れるなどしながら、取り組みを進めていく必要がある。					
外 部 評 価		＜コメント＞ B 継続					

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		学校教育課					
主 要 施 策		社会貢献を実現する子どもたちの育成					
個別事業・施策名		優れた才能や個性を伸ばす学習機会の提供 (ALT、CIR等による外国語活動の充実)				事業 年度	6
事 業 区 分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行 状 況	当年度	予算額	26,623千円	決算額	26,351千円	執行率	99.0%
	前年度	予算額	25,665千円	決算額	24,736千円	執行率	96.4%
目 的		社会教育や学校教育における交流活動を通して、世界各国の人々が長年培ってきた文化や民族への理解に努め、互いに尊重し合う意識を育むことにより「世界に開かれたまちづくり」を推進する。					
事業の実施状況		JET青年主体事業（学校訪問） 国際交流員（CIR）や外国語指導助手（ALT）を町内中学校及び小学校、幼稚園、保育園に派遣し、外国語活動や国際交流活動を行った。 令和6年度はCIR1名、ALT1名が帰国したため、新たにCIR1名、ALT1名を任用した。 ①中学校（ALT 4名）…内子中 3日/週、五十崎中・小田中 2日/週、大瀬中 1日/週 ②小学校外国語（ALT 4名）各小学校 1回/週 ③小学校/幼稚園/保育園訪問（CIR 1名）各 1回/月 ④幼稚園/五十崎こども園英会話講師訪問 各 2回/月 ○報酬18,265,151円、共済費2,693,820円、旅費705,400円、帰国旅費793,680円、需用費57,293円、委託料700,000円、使用料1,652,321円、担金1,301,872円					
事業の効果等		2020年度から実施された新学習指導要領の本格実施に対応し、小学校・中学校を訪問している。ALTを4名任用し、町内4つの中学校を拠点とし小学校を学校規模に応じて週1回以上訪問している。 幼児期からの英語教育を充実するため、外国人の英会話講師に委託して幼児に対する英会話レッスンを月2回実施している。 さらに、CIRの国際交流活動においては、園児・児童・生徒を対象に活動し、国際理解活動を実施している。					
自 己 評 価		B					
課 題 ・ 問 題 点		新学習指導要領により、小学校における英語の必修時間が3・4年生が、0時間から35時間に、5・6年生が35時間から70時間に倍増したことから、外国語指導助手（ALT）の担う役割が増している。 このことから、授業におけるALTの活用について、教員の力量にゆだねられている状況であるため、ALTを効果的に活用する授業づくりのための取組が必要である。					
外 部 評 価		B		<コメント> 継続			

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		学校教育課					
主 要 施 策		社会貢献を実現する子どもたちの育成					
個別事業・施策名		優れた才能や個性を伸ばす学習機会の提供 (環境教育の推進)				事業 年度	6
事 業 区 分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行 状 況	当年度	予算額	700千円	決算額	336千円	執行率	48.0%
	前年度	予算額	1,359千円	決算額	890千円	執行率	65.5%
目 的		内子町独自の環境教育を推進し、常に環境に配慮した行動のできる児童・生徒を育てることを目的とする。					
事業の実施状況		【環境教育】 各小・中学校において、環境教育のねらいを設け、各教科、総合的な学習の時間等広い分野で環境教育の学習を行った。 【環境子ども会議】 令和7年2月12日共生館（五十崎自治センター）で開催。小学生（主に4年生）・中学生（1年生）が一堂に会場に集合し、開催。 小学生は8テーマに分かれて体験学習を実施。環境に配慮した活動をしている地域住民やNPOを講師にしたテーマ（廃食油で石けん作り、豆腐とおからドーナツ作り、Tシャツマイバック作り、あかりとエコ教室、やまなみネイチャーランド、伝統工芸・組子細工体験（ミニ衝立作り））やパナソニックエレクトリックワークス社によるテーマ（あかりエコ教室～自分たちでできるあかりの省エネ～）も加えて実施。 中学生は、パナソニックエレクトリックワークス社による「環境にやさしいランタンづくり」と題して、電気の創・蓄・省といった脱炭素化をテーマに、太陽光で発電することで、再生可能エネルギーの実用性と可能性を直接体験。 ○参加者 小学生110名 中学生117名 【環境副読本の活用】 各小・中学校で、総合学習などに活用している（今後は町の脱炭素化戦略についてを改めて盛り込み改訂する予定。）。					
事業の効果等		【環境子ども会議】 事後アンケートによると、それぞれの体験を通して、環境のために自分ができると考えたことが分かった。中学生と小学生での全体会で、内子町の環境に対する取組について講義を受け、感想や意見発表をしたことで、お互いの気づきや学びになり、また児童生徒の家庭での取り組みや身の回りでの取組について考える機会となった。 また、実施後のアンケートによると、ランタン作りはとても難しいとの回答が多かったが、スタッフや周りの方の支援が厚く楽しくできたとのこと。併せて教職員にとっても、内子町の環境への取り組み等を知る良い機会になった。					
自 己 評 価		B					
課 題 ・ 問 題 点		環境子ども会議では、環境保全等に対する意識の向上を目的として、毎年実施している。内子町教育研究所に環境教育委員会を設置しており、当委員会や環境政策室と連携するなどし、子どもへの環境教育を推進している。 児童生徒及び教員対象の実施後のアンケートによると、今年度始めて実施されたランタン作りは難易度が高く、周りの方の支援がないと時間内の完成が難しい印象であった。 児童生徒が円滑に工作に取り組めるよう、難易度の調整が必要であると感じた。					
外 部 評 価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		学校教育課					
主 要 施 策		安全、安心で充実した教育環境の構築					
個別事業・施策名		経済的、地理的条件が不利な子ども達に対する支援（就学援助）				事業年度	6
事業区分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行状況	当年度	予算額	11,897千円	決算額	9,781千円	執行率	82.2%
	前年度	予算額	11,773千円	決算額	10,035千円	執行率	85.2%
目 的		【要保護及び準要保護児童生徒就学援助費支給事業】 経済的理由によって就学困難と認められる児童又は生徒の保護者に対し、就学援助費を支給することにより、義務教育の円滑な実施に資することを目的とする。 【特別支援教育就学奨励費支給事業】 特別支援学級に就学する児童又は生徒の保護者に対し、特別支援教育就学奨励費を支給することにより、保護者の経済的負担を軽減し、もって特別支援教育の振興に資することを目的とする。					
事業の実施状況		【要保護及び準要保護児童生徒就学援助費支給事業】 令和6年度支給対象児童・生徒数 要保護・・・小学校 2名 準要保護・・・小学校 52名、中学校 45名 令和6年度支給総額（扶助費） 準要保護・・・小学校 3,256,483円、中学校 5,151,846円 【特別支援教育就学奨励費支給事業】 令和6年度支給対象児童・生徒数・・・小学校 32名、中学校 11名 令和6年度支給総額（扶助費）・・・小学校 921,410円、中学校 450,741円 令和6年度国庫補助金 686,000円					
事業の効果等		経済的に困窮している保護者に、就学に必要な経費の一部を支給することにより、学級費や給食費の未納がなくなった。また、新入学学用品費の入学前支給を実施し、義務教育の円滑な実施の一助となった。 また、特別支援学級に通う児童・生徒の保護者に、就学に必要な経費の一部を支給することにより、保護者の経済的負担を軽減することができた。					
自己評価		B					
課題・問題点		準要保護児童・生徒の保護者のうち、児童扶養手当受給者の割合が69.3%と高く、ひとり親世帯においては経済的に困窮しているケースが多い。 また、本制度についての周知や申請しやすい環境づくりが重要となっているため、学校を通じて周知を行うとともに町ホームページでも周知をしている。					
外部評価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		学校教育課					
主 要 施 策		安全、安心で充実した教育環境の構築					
個別事業・施策名		経済的、地理的条件が不利な子ども達に対する支援（遠距離通学の支援）				事業年度	6
事業区分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行状況	当年度	予算額	22,290千円	決算額	19,821千円	執行率	88.9%
	前年度	予算額	14,382千円	決算額	13,865千円	執行率	96.4%
目 的		通学困難な児童・生徒及び保護者の通学にかかる負担の軽減を図り、教育条件の改善と教育の円滑な運営を実現する。					
事業の実施状況		【遠距離通学費補助及びスクールバス運行事業】 ・遠距離通学の児童・生徒に対して、バス定期券の購入に係る費用の補助を行っている。また路線バスが運行していない地域の児童生徒に対しては、スクールバス等を運行している。（該当者90名） ・自転車等で通学する児童生徒には、年間2万円の補助を行っている。（該当者16名） ・老朽化したマイクロバス（H7年登録）の更新のため車両を購入した。 ・スクールバス運転手を8人確保し運行している。また、一部路線（石畳便）は、社会福祉協議会に運行を委託している。 ・長期休業中も学校行事（水泳練習等）、部活動のため運行をしている。 【遠距離通学費補助に係る財源】 過疎・離島地域遠距離通学補助援助事業費補助金 11千円					
事業の効果等		通学に係る児童・生徒及び保護者の負担を軽減し、義務教育の円滑な推進が図られている。 バスについては、遠距離通学の児童・生徒の通学の利便性と安心・安全な登下校に寄与している。					
自己評価		B					
課題・問題点		通学困難な児童・生徒への補助については、近年の事件・事故等を考慮して継続していく必要がある。 給食センターの運搬応援及び臨時バス等学校の要望に応じられるよう、運転手の確保をはじめ安全な運行体制の確立が課題となっている。 既存車両の劣化で修繕を繰り返しており、計画的な車両の更新が必要である。 令和8年度開始予定の部活動地域移行において、送迎の手段がどうなるのか、協議の行方を注視する必要がある。					
外部評価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		学校教育課					
主 要 施 策		安全、安心で充実した教育環境の構築					
個別事業・施策名		教育に係る教育費の負担軽減 (奨学金資金制度の充実)				事業 年度	6
事 業 区 分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行 状 況	当年度	予算額	2,232千円	決算額	2,232千円	執行率	100.0%
	前年度	予算額	4,032千円	決算額	4,032千円	執行率	100.0%
目 的		高等学校又は大学等への進学を希望しても経済的に困難な者に対して、奨学金を貸与することで教育の機会を与えるとともに、有望な人材の育成へ貢献する。					
事業の実施状況		【奨学資金制度】 条例に基づき「内子町奨学資金」「内子町内子小学校開校百周年記念高畑奨学資金」を貸与している。 「内子町奨学資金」貸与額 高校等への進学 月額18,000円 大学等への進学 月額50,000円 ・本年度新規採用者数 高校0名（採用後辞退） 大学0名 ・貸与者数：高校2名 大学3名 ・返還者数：52名 「内子町内子小学校開校百周年記念高畑奨学資金」 奨学金の貸与額 大学等への進学 月額70,000円 ・本年度新規採用者数 0名 ・貸与者数：大学2名 ・返還者数：5名					
事業の効果等		大学等進学者へ奨学金（無利子）を貸与することにより、経済的な理由により進学を躊躇している学生に対して貢献することができている。 併せて、一部返還免除制度も創設している。返還については、一部を除き、遅延なく返還いただいている状況である。					
自 己 評 価		B					
課 題 ・ 問 題 点		引き続き経済的に進学困難な者へ教育の機会を与えるとともに、有望な人材の育成に引き続き貢献していく。また、改めて奨学金制度の広報にも努めると共に、新規利用希望者への周知を広報やHPによる募集案内と併せ、大洲市・喜多郡以外の松山圏域の進学者の多い高等学校等へも送付し、周知を行っている。					
外 部 評 価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		学校教育課					
主 要 施 策		安全、安心で充実した教育環境の構築					
個別事業・施策名		教育に係る教育費の負担軽減 (修学旅行費の補助)				事業 年度	6
事 業 区 分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行 状 況	当年度	予算額	18,798千円	決算額	17,378千円	執行率	92.4%
	前年度	予算額	8,714千円	決算額	8,704千円	執行率	99.9%
目 的		小学校・中学校・高等学校等の修学旅行費の一部を補助し子育て世代の経済的負担を軽減するとともに、児童生徒の健全な育成を支援する。					
事業の実施状況		【修学旅行費補助金】 補助限度額 小学生 1人につき25,000円 中学生 1人につき60,000円 高校生等 1人につき70,000円 補助実績 小学生 2,624,470円 ・101人×25,000円 ・(特別支援) 7人×(25,000円-10,790円) 中学生 7,473,420円 ・123人×60,000円 ・(特別支援) 3人×(60,000円-28,860円) 高校生等 7,280,000円 ・104人×70,000円					
事業の効果等		修学旅行費を補助することにより、物価高等による家計への負担が増加する中で、子育て世代への経済的負担を軽減できている。					
自 己 評 価		B					
課 題 ・ 問 題 点		子育て世代への経済的負担の軽減を切れ目なく行うため、令和6年度より対象者を高校生へ拡充し、修学旅行費の補助を行った。継続的に事業実施に取り組む。					
外 部 評 価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載 (A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない)

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		学校教育課					
主 要 施 策		安全、安心で充実した教育環境の構築					
個別事業・施策名		学校等施設関係の環境整備 (施設の改修、修繕)				事業 年度	6
事 業 区 分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行 状 況	当年度	予算額	165,996千円	決算額	162,794千円	執行率	98.1%
	前年度	予算額	280,106千円	決算額	278,640千円	執行率	99.5%
目 的		経年劣化等により、古くなった学校施設を修繕し、園児・児童・生徒が学習しやすい環境整備を行うとともに施設の長寿命化を図ることを目的とする。 また、学校校舎及び避難所にも指定されている屋内運動場のトイレのバリアフリー化、また洋式化及び乾式化等の改修を行い、生活様式の変化に対応し、トイレ環境の改善を図る。					
事業の実施状況		学校施設修繕（緊急的修繕を含む）及び、内子町学校施設トイレ改修工事等の工事を実施した。主な内容は以下のとおり。 【施設修繕】 幼稚園施設修繕 9千円 小学校施設修繕 10,030千円 中学校施設修繕 9,890千円 【委託料】 フロアメンテナンス委託業務 481千円 遊具点検委託業務 42千円 小計 523千円 【主な工事】 内子小学校体育館雑排水配管改修工事 337千円 内子町学校施設トイレ改修工事（5工区）139,603千円 小計 139,940千円 【内子町学校施設トイレ改修工事に係る財源】 学校施設環境改善交付金 46,995千円 【次年度へ繰越】 なし					
事業の効果等		今年度は主に、町内学校施設において、屋内運動場のトイレの車椅子対応、また洋式化及び乾式化等の改修を実施した。 町内の学校施設の環境改善に取り組み、学校施設の老朽化の激しい所や破損した箇所の迅速な対応をできる限り実施し、園児・児童・生徒及び教職員の安全性や利便性等を確保し、良好な教育環境の維持に努めることができた。 計画的な改修及び緊急修繕に対応し、学校施設を適切に維持管理するとともに長寿命化を進めている。					
自 己 評 価		B					
課 題 ・ 問 題 点		【学校施設修繕関係】 法定点検を実施した結果に応じて、劣化箇所は優先的に修理していく予定。また、今後は、校舎の照明LED化及び屋内運動場の空調整備が急がれている。 その他、町内の幼、小、中学校の12施設で、それぞれの施設において経年劣化により修繕必要箇所が年ごとに新たに発生しており、優先順位を付けるなどして計画的に対応しているが、雨漏りや機器の故障などの突発的な修繕対応が必要になる事も多く、計画どおりに着手できない場合もある。 引き続き、財政状況が厳しい中、限られた予算でできる限り長寿命化を図っていく必要がある。					
外 部 評 価		B	<コメント> 拡充				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		学校教育課					
主 要 施 策		学校・家庭・地域が連携した教育の推進					
個別事業・施策名		社会総がかりで子どもたちの学びを支援する取組 (コミュニティ・スクールの推進)				事業 年度	6
事 業 区 分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行 状 況	当年度	予算額	3,091千円	決算額	2,658千円	執行率	86.0%
	前年度	予算額	3,939千円	決算額	3,004千円	執行率	76.3%
目 的		保護者、地域住民等の学校運営への参画、連携強化を進めることにより、学校と保護者、地域住民等との信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善及び児童生徒の健全育成に取り組む。					
事業の実施状況		【学校運営協議会】 ・7つの学校運営協議会において、それぞれふるさと教育を企画し、各地域の特色ある学びを展開するとともに、学校と保護者、地域住民が一体となって子どもたちを育成する環境づくりを行った。 ・内子中学校運営協議会では、総合的な学習や地元企業での中学生の作品展示などの広報活動、文化祭での地域飲食店との取組み、防災教育などを通じて地域について学び、地域の方や先輩方と交流することができた。 ・五十崎地域学校運営協議会では、各学校部会も立ち上げ、学校ごとの取組も併せて進んだ。全体での「一斉あいさつ運動」や「アルミ缶回収」も活動が定着してきている。 ・それぞれの学校で、ふるさと教育を展開し、地域の農業、林業、歴史等について、地域の人材を活用して体験活動や調べ学習を行い、地域の魅力を感じたり、理解を深めたりすることができた。 【学校運営協議会研修】 ・町内地域コーディネーター連絡会を毎学期1回ずつ開催（計3回）し、各学校運営協議会での取組等情報交換を行い、有意義な話し合いを行うことができた。 【うちこ未来塾・立川みらい塾】 ・プログラミング体験教室を中心に、計6回実施した。夏のワークショップ「マイクラでゲーム建築」しながら内子町の建物したり、冬のワークショップ「デジタルファブリケーション」を、木工（オーナメント作り）を行ったりした。学校巡回放課後体験講座では、石畳小学校、立川小学校、小田中学校で講座を通して新技術を体験するとともに、考えたり、表現したりと様々な学びがあった。 ・「かえるの学校」と称して、立川の棚田を活用し、田植え体験から稲刈り体験・収穫祭や、生物調査、炭焼き体験など、ふるさとの良さを再認識するための学びを行った。					
事業の効果等		令和4年度から内子全地区において、コミュニティ・スクールの取組が始まり、3年目となった。各校それぞれが、地域の特色を生かしながら工夫を凝らし、地域との連携を図ることによって体験活動がより充実したものとなった。それぞれの活動の紹介や、ホームページの立ち上げなど新しい取組も進んだ。 未来塾として、「うちこ未来塾」「立川みらい塾（通称：かえるの学校）」ともに、豊かな体験活動を通じた学びの深まりが見られた。					
自 己 評 価		A					
課 題 ・ 問 題 点		コミュニティ・スクールを導入して6年目を迎え、活動に広がりが見られ、充実した取組になってきている。各種研修への参加も進め、学びが深まる実践や、地域に広がる取組を行っていききたい。 地域コーディネーター連絡会を開催し、それぞれの課題や問題点について話し合い、改善の取組も行われた。町内全ての学校に設置された学校運営協議会が、連携した取組についても、今後の検討課題として考えていきたい。 また、プログラミング教育を中心とした「うちこ未来塾」の活動において、子どもたちが主体的に学べる教材設定や開催方法の工夫も検討していきたい。					
外 部 評 価		A		<コメント> 継続			

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		学校教育課					
主 要 施 策		学校・家庭・地域が連携した教育の推進					
個別事業・施策名		愛郷心を育み、支え合う心と絆づくりを推進 (ふるさと教育の充実)				事業 年度	6
事 業 区 分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行 状 況	当年度	予算額	4,867千円	決算額	4,198千円	執行率	86.3%
	前年度	予算額	3,056千円	決算額	2,822千円	執行率	92.3%
目 的		内子町の地域を見つめ直す機会を与え、内子町の良さを再発見することで、児童・生徒が郷土愛を育むことを目的とする。					
事業の実施状況		【内子町を描こう写生展】 245千円 894点（小：596点 中：298点）の応募があり、特選37点、入選148点を選出した。展示会は、各自治センター（風博物館・内子自治センター・小田自治センター）で行った。Web展示会も昨年同様に実施した。 【小田深山自然体験活動】 1,617千円 各小学校5年生が小田深山で自然活動を実施した。全ての連合小学校（内子連合小学校、五十崎連合小学校、大瀬・小田連合小学校）で、宿泊体験を行うことができた。 【手漉き和紙を利用した卒業証書作り】 440千円 各小学校6年生が五十崎重松地区の西岡さんから手漉き和紙について学ぶとともに、実際に指導を受けて自分だけの卒業証書作りを行った。 【小田深山スキー教室】 1,896千円 SOL-FAオダスキーゲレンデにおいて、スキー教室を行った。					
事業の効果等		【内子町を描こう写生展】 児童生徒がふるさとの魅力を再発見し、郷土愛を育む機会になった。 【小田深山自然体験活動】 自然に親しみ、ふるさとのよさを見つけるとともに、集団生活の中で基本的な生活習慣や自主性を身につけることができた。 【手漉き和紙を利用した卒業証書作り】 郷土の伝統的な工芸品について学ぶとともに、自分だけの卒業証書を手漉き和紙で作ることにより、実際に体験することができた。 【小田深山スキー教室】 基本的なスキー技術を体得すると共に自然に親しみ、美しい自然を愛する心を育むことができた。					
自 己 評 価		B					
課 題 ・ 問 題 点		新型コロナウイルス感染症拡大防止により、令和3年度は中止となった小田深山自然体験活動も、令和4年度は日帰り、令和5年度は小規模連合校のみで宿泊体験を実施し、令和6年度は、全ての連合小学校で宿泊体験を実施することができた。しかし、各学校の教職員や児童生徒数の減少等により、各種事業の開催が困難になりつつあるため、今後の事業の実施方法については、学校規模等を考慮した無理のない実施方針を検討していく必要がある。					
外 部 評 価		B <コメント> 継続					

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		学校教育課					
主 要 施 策		特別支援教育の充実					
個別事業・施策名		障がいのある子どもたちへの自立・支援				事業年度	6
事業区分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行状況	当年度	予算額	59千円	決算額	50千円	執行率	84.7%
	前年度	予算額	59千円	決算額	56千円	執行率	94.9%
目的		教職員に対する研修会等により専門性の向上を図るとともに、発達障がいを含む障がいのある幼児児童生徒に対して個に応じた支援を行い、つまずきや困難さの克服・改善を目指す。					
事業の実施状況		【特別支援学級への入級を判定する教育支援委員会の実施】 ・特別支援教育コーディネーターへの研修 1回 ・特別な支援が必要な幼児児童生徒について、特別支援教室への入級を判定する教育支援委員会を年3回実施した。 ・令和6年度末時点の特別支援学級在籍児童生徒 〔小学校児童 47名〕 〔中学校生徒 29名〕 ・教育支援委員会委員報酬 36,000円 ・教育支援委員会費用弁償費 13,200円 【通級指導教室への通級を判定する通級指導判定委員会の実施】 ・通常の学級に在籍する児童生徒に対して、情緒面・行動面・対人関係等における個別の指導や支援を行うことにより、学校生活の充実を図る。 ・小学校では天神小学校1か所、中学校では内子中学校に1か所、設置 ・令和6年度末時点の通級指導教室利用児童生徒 〔小学校児童 23名〕 〔中学校生徒 14名〕					
事業の効果等		児童生徒の特性に応じた個別の指導を提供することができた。					
自己評価		C					
課題・問題点		個別支援が必要な幼児、児童、生徒は増加傾向にあるが、通級指導教室は小中学校各1箇所しかなく、保護者は送り迎え等の負担を強いられている。家庭の事情で送迎できない家庭について、巡回指導を行ったが、移動時間もあり人数が限られている。通級指導が必要な児童が増えているので、新設も視野に入れながら検討を進める必要がある。 こども支援課（発達自立支援センター）・学校教育課・学校等の密な連携が必要である。					
外部評価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		学校教育課																							
主 要 施 策		特別支援教育の充実																							
個別事業・施策名		学校生活支援員の効果的な配置				事業年度	6																		
事業区分		町単独事業		国県支出事業		その他																			
予算執行状況	当年度	予算額	49,043千円	決算額	47,175千円	執行率	96.2%																		
	前年度	予算額	37,190千円	決算額	36,429千円	執行率	98.0%																		
目 的		障がい等により、学校生活への適応が困難な児童生徒が、豊かな学校生活を送れるよう学校生活支援員を配置する。																							
事業の実施状況		学校からの要望を受けて実態把握等を行い、支援の充実を図るため次のとおり配置した。 【配置数】 <table border="0"> <tr><td>内子小学校</td><td>11名</td></tr> <tr><td>大瀬小学校</td><td>1名</td></tr> <tr><td>立川小学校</td><td>1名</td></tr> <tr><td>天神小学校</td><td>4名</td></tr> <tr><td>五十崎小学校</td><td>3名</td></tr> <tr><td>小田小学校</td><td>1名</td></tr> <tr><td>内子中学校</td><td>2名</td></tr> <tr><td>五十崎中学校</td><td>2名</td></tr> <tr><td>計</td><td>25名</td></tr> </table> 【一人当たり】 1日6時間、年間200日						内子小学校	11名	大瀬小学校	1名	立川小学校	1名	天神小学校	4名	五十崎小学校	3名	小田小学校	1名	内子中学校	2名	五十崎中学校	2名	計	25名
内子小学校	11名																								
大瀬小学校	1名																								
立川小学校	1名																								
天神小学校	4名																								
五十崎小学校	3名																								
小田小学校	1名																								
内子中学校	2名																								
五十崎中学校	2名																								
計	25名																								
事業の効果等		学級担任だけでは十分に行き届きにくい、一人ひとりに応じた適切な支援ができ、学級担任等と連携して、効果的で円滑な教育活動が実施できた。 支援員のスキルアップを図り、児童生徒への効果的な支援に繋がるよう、学校生活支援員むけの研修を実施している。																							
自 己 評 価		B																							
課 題 ・ 問 題 点		支援が必要な子どもたちが増えており、学校からの配置要望は多い。 学校生活支援員の人数には限りがあり、要望どおりの配置はできていないが、研修による支援員個々のスキルアップを図っており、効果的な支援につなげている。 教員との連携、適正な人員配置が課題であり、学校訪問や研修会において各校の状況や課題等を把握し、現場に即した人員配置等を行っている。																							
外 部 評 価		B	<コメント> 継続																						

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		自治・学習課					
主 要 施 策		連帯と活力に満ちた自治センター・自治会活動の展開 多様な主体の協働によるコミュニティ活動の推進					
個別事業・施策名		自治会活動の支援				事業 年度	6
事 業 区 分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行 状 況	当年度	予算額	37,717千円	決算額	37,621千円	執行率	99.7%
	前年度	予算額	36,485千円	決算額	36,348千円	執行率	99.6%
目 的		「第2期内子町総合計画」を基盤にしたまちづくりを推進するため、町民の自治力の高揚を図り、ふるさとづくりへの意欲と行動力に満ちた人づくりを推進する。					
事業の実施状況		1. 自治会運営費の交付 町民が自らの創意工夫により、自治組織の確立のために取り組む活動並びに、敬老会等の実施により地域社会の活性化を目的とする交付（交付先:41自治会、予算:32,766千円 決算:32,766千円） 2. 地域づくり事業費補助金等の交付 地域づくり計画に基づき、地域住民自らの工夫と労働が伴う事業に対し補助金を交付（R4補助金交付要綱の改正：自主防災組織の活性化に関するものを追加）交付先34自治会、予算:4,951千円 決算:4,855千円（うち伝統芸能後継者育成事業補助金200千円） 3. 地域づくり懇談会の開催 住民と行政が共に地域課題を共有しながら地域づくり計画を推進するため、懇談会を開催（開催場所：7会場、参加者：175名） 4. 自治会相互の連携及び自治会主体のまちづくりを推進するための研修等 ①自治会活動研究大会（自治会連絡会 2/15） テーマ：防災・減災力を高める地域づくり、内容：廿日市・上田渡自治会活動報告・講演、講師：愛媛大学防災情報研究センター長 パンダリ・ネトラ・ブラカシュ氏、参加者数：約200人 ②各自治センター管内先進地視察研修 内子自治センター（11/14） 視察先：愛媛県西予市城川町「西予ジオミュージアム」・宇和町「開明学校・宇和民具館・町並」、内容：ジオパークを活用したまちづくり、開明学校・宇和民具館見学、卯之町の町並視察、参加者数：14人 内子東自治センター（6/18～19） 視察先：高知県土佐町「いしはらの里」、佐川町「酒蔵の道」他、内容：地域住民と移住者の協働による地域活性化について、参加者数：15人 大瀬自治センター（11/25） 視察先：高知県土佐郡土佐町石原地区、内容：「集落活動センターいしはらの里」の組織運営等（集落活動の活性化）、参加者数：15人 五十崎自治センター（2/4～5） 視察先：宮崎県高千穂町 上田原神楽保存会・高千穂コミュニティーセンター、内容：伝統文化保存の町づくり及び地域の後継者育成、参加者数：28人 小田自治センター（12/8～9） 視察先：熊本県益城町「東無田復興委員会」、内容：自治会及び自主防災会による地域住民を巻き込んだ防災減災への取組について、参加者数：22人 ③地域おこし協力隊1年目の活動支援（予算:884千円 決算:749千円） 石畳地区担当ミッション 村並保存活動への支援（耕作放棄地対策含む）、地域の農村ビジネス（農業や関連事業）の支援					
事業の効果等		地域づくり事業において、自主防災組織と連携した事業を行う自治会が増加し、自治会を中心とした災害への備えを強化することにつながった。 各自治会開催の「地域づくり懇談会」にて膝を突き合わせて問題解決に向けての協議を行うことができた。 自治会活動研究大会を実施し、各自治会の課題解決や災害対策の参考となった。					
自己評価		B					
課題・問題点		高齢化や地域の担い手不足、役員の負担増等により、自治会の運営が厳しいという現状がある。将来的には住民の主体的な意思による自治会の再編に向けた協議が必要。 課題解決に向けて、自治センターや地域づくり担当職員を中心に、行政と自治会がより密接に連携しながら、地域での指導的役割を果たす人材の確保と育成に努める必要がある。また、役員の負担を軽減するための取組を行っていく必要がある。					
外部評価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		自治・学習課					
主 要 施 策		連帯と活力に満ちた自治センター・自治会活動の展開 多様な主体の協働によるコミュニティ活動の推進					
個別事業・施策名		自治センター活動の充実				事業 年度	6
事 業 区 分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行 状 況	当年度	予算額	65,697千円	決算額	61,977千円	執行率	94.3%
	前年度	予算額	69,594千円	決算額	63,782千円	執行率	91.6%
目 的		愛郷心の薄れや自己中心的な社会風潮の中で、支えあい助け合う心と絆を育てるため、自治センター・自治会・図書館等の社会教育活動を高めコミュニティの育成を図る。					
事業の実施状況		1. 内子自治センター（予算：523千円 決算：88千円） ①自治会活動の支援 ・自治会連絡会の開催 ・自主防災組織との連携：講演会の開催 6/24 演題「災害時における自主防災組織と社会福祉協議会との連携について」、講師 内子町社会福祉協議会 事務局長 福岡哲平様、名木 憲弘様 ・地域ぐるみ人権・同和教育の開催 ・管内自治会連絡会先進地視察研修 11/14 2. 内子東自治センター（予算：584千円 決算：584千円） ①地域共同の再編及び小規模高齢化集落対策 ・サロン等による相互扶助の支援 ②お山の学校（旧長田小学校）の支援 ③自治会活動の支援 ・地域づくり懇談会の開催 ④内子東自治センターまつりの開催 11/17 ・自治会や各自治会内の方及びフリーマーケットのブース計30店舗出店、約600名来場 ・内子東自治センター管内の20年（内子町合併20周年記念DVD作成） ⑤城廻コミュニティビジネスの支援 ⑥地域づくり先進地研修実施 6/18-19 ・高知県土佐町「集落活動センターいしはらの里」、佐川町「酒蔵の道」他 ⑦内子地区ソフトボール・レクバレーボール決勝大会実施6/30 ・出場自治会（ソフトボール 城廻 レクバレー 城廻（優勝）石畳） ⑧ニューススポーツ体験会（モルック）実施 論田自治会11/10 3. 大瀬自治センター（予算：524千円 決算：416千円） ①自治会活動の支援・充実と発展 ・管内自治会連絡会先進地視察研修11/25 ・自治会連絡会の開催、地域づくり懇談会の開催 ・地域ぐるみ人権・同和教育の開催 ②大瀬地区人権まつりの開催 ・大瀬中学校による人権劇の発表、人権作品展示の充実 4. 五十崎自治センター（予算：23,569千円 決算：22,209千円） ①自治センター運営審議会の実施 ②自治会活動の支援 ・自治会活動支援 ・五十崎スポフェスの実施10/13 ・御祓コミュニティ・カフェ「みそぎの里」の活性化支援 ・共生館30周年事業コンサート6/30 ・自治会先進地視察研修2/4 ③魅力ある施設づくり ・図書新刊購入 5. 小田自治センター（予算：40,497千円 決算：38,680千円） ①自治会活動の支援 ・自治会連絡会及び自主防災組織連絡協議会の開催 ②小田の郷ふるさとまつりの開催 ・園児、児童、生徒及び文化協会員、郷土出身者等の作品や企画展示 ・一部内子高校小田分校文化祭との共同での開催 ③自治センター・自治会・学校等が連携した事業の実施 ・センター協力で実施した愛媛大学の芝居小屋の記憶の研究					
事業の効果等		旧御祓小学校を活用したコミュニティカフェ「みそぎの里」は元地域おこし協力隊員を中心に地域の方々も参加して定期的な開催を行っている。また、各自治センターにおいては、自治会活動（自主防災組織連絡会活動を含む）の支援や自主イベント等を実施しており、地域のコミュニティの推進と他地域の方との交流、情報発信に繋げている。					
自己評価		B					
課題・問題点		高齢化と地域の担い手不足、役員の負担増等、自治会の運営が年々厳しいとの声が聞かれる。将来的には住民の主体的な意思による自治会の再編に向けた協議が必要。 課題解決に向けて、自治センターや地域づくり担当職員を中心に、行政と自治会がより密接に連携しながら、地域での指導的役割を果たす人材の確保と育成に努めることが必要である。					
外部評価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		自治・学習課					
主 要 施 策		交流活動等を通じた多文化共生の推進					
個別事業・施策名		交流基盤の整備				事業年度	6
事業区分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行状況	当年度	予算額	4,773千円	決算額	4,630千円	執行率	97.0%
	前年度	予算額	0千円	決算額	0千円	執行率	0.0%
目的		社会教育や学校教育における交流活動を通して、世界各国の人々が長年培ってきた文化や民族への理解に努め、互いに尊重し合う意識を育むことにより「世界に開かれたまちづくり」を推進する。					
事業の実施状況		1. 令和6年度青少年海外派遣事業（令和元年以来5年ぶりに実施） 国際交流協会と共催 派遣団員助成（予算：1,870千円 決算：1,870千円） 団長・引率・通訳・選考会面接官旅費（協会） （予算：1,603千円 決算：1,560千円） 2. 国際交流協会との協働 上記目的を達成するため、実施主体となる国際交流協会の事業実施・運営のサポートを行った。 国際交流協会設立30周年記念事業補助金 （予算：1,300千円 決算：1,200千円） 町内中学生対象講演会 講師サヘル・ローズ氏 ローテンブルク市街のミニチュア展 3. 文化祭への実習生参加 五十崎文化祭に企業の外国人実習生による母国料理のブース出店					
事業の効果等		内子町国際交流協会の機関紙『ゆうていあ』を内子町の広報紙『広報うちこ』に掲載してもらい、国際交流・国際理解に対する認識を深める活動を展開している。 5年ぶりに青少年海外派遣を再開した。募集では34名の応募があり事業への期待がうかがえた。 国際交流協会設立30周年記念事業では中学生を対象とした講演会を実施し、世界や国内での出来事に目を向け、平和や差別について自分事として考える機会を提供した。					
自己評価		B					
課題・問題点		青少年海外派遣事業が再開した。効率性と充実性を考えた事前・事後研修の実施を検討する。 文化祭への実習生参加については、実習生という立場から期間が限られており、地域住民とこの機会にふれあった縁を一回限りでない継続的な関係性とするのが課題。地域づくりや国際交流という視点から、地域住民が効果を実感できる取り組みとしたい。					
外部評価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		自治・学習課					
主 要 施 策		生涯学習社会の醸成					
個別事業・施策名		生涯教育の推進				事業年度	6
事業区分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行状況	当年度	予算額	1,312千円	決算額	1,049千円	執行率	80.0%
	前年度	予算額	1,584千円	決算額	1,194千円	執行率	75.4%
目 的		家庭教育、学校教育、社会教育の有機的な連携のもと、生涯学習の体系化と推進を図り、町民に生涯にわたってあらゆる機会、あらゆる場所において学習できる教育環境を提供する。					
事業の実施状況		1. 気軽にコミュニティカレッジin内子 愛媛大学 社会共創学部と共催し、6月～1月にかけて毎月開講（全8回）。オンラインでの参加を可能にしたり、高校生の参加を募るなど「懇話会」を中心に受講者の拡大に努めている。 2. 内子町女性団体連絡協議会（予算：98千円 決算：53千円） 町内の女性関係団体11団体（うち、休会1団体）で構成。学習会等を通し、団体間の交流や連絡調整を図っている。令和4年度より、各構成団体の活動を紹介する学習会を実施し、相互理解を深めている。 3. 内子自治センター（予算：66千円 決算：36千円） ①自治センター杯クロッケー大会 ②高齢者大学の開催（9回） 4. 内子東自治センター（予算：313千円 決算：225千円） ①高齢者教室（5回・142名参加） ②高齢者運動会（内子自治センターとの共催事業 74名参加） ③内子地区自治センター杯高齢者クロッケー大会 （内子・大瀬自治センターと共催事業 58名参加） ④高齢者教室1日研修 広島県尾道市「耕三寺」他 17名参加 5. 大瀬自治センター（予算：267千円 決算：248千円） ①高齢者教室 ②女性教室（大瀬地域女性連絡会） 6. 五十崎自治センター（予算：538千円 決算：487千円） ①高齢者教室 ②女性教室 7. 小田自治センター（予算：30千円 決算：0千円） ①高齢者教室（3回）					
事業の効果等		「気軽にコミュニティカレッジin内子」は、前身の「気軽に文化講座」時より、受講生による自主運営が行われている。 女性団体連絡協議会は活動を通して、団体間の情報交換や交流が生まれたり、女性の視点から町政や様々な問題を見つめ、考えるきっかけとなっている。 高齢化が進む中、生涯を通じた取り組みが各自治センターで行われている。					
自己評価		B					
課題・問題点		事業全体を通して、受講者の固定化が見られる。講座内容をもっと多くの住民の方に周知し関心を持ってもらう工夫が必要。					
外部評価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		自治・学習課					
主 要 施 策		文化活動の促進と文化財の保護					
個別事業・施策名		文化活動拠点施設の活用及び創作活動の促進				事業年度	6
事業区分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行状況	当年度	予算額	4,917千円	決算額	4,078千円	執行率	82.9%
	前年度	予算額	3,878千円	決算額	2,795千円	執行率	72.1%
目 的		内子町における文化諸団体（グループ）等の育成や、自主的な活動の促進を図り、町内文化の振興発展に努める。					
事業の実施状況		1. 内子町文化協会（本部）（予算：1,332千円 決算：1,174千円） ①カラオケ発表会（7/21 参加申込者77名、観覧者170名） ②地域こども文化体験教室（10/5 延べ183名参加） ③うちこ文化月間（各種文化体験）（11/16～12/13 参加団体12団体、延べ22名体験参加） ④新春俳句大会（参加者41名） 2. 内子町文化協会内子支部（予算：681千円 決算：441千円） ①合同芸能発表会（5/12） ②夏祭り美術展（7/19～7/24） ③うちこ文化祭作品展（11/2～4） 3. 内子町文化協会五十崎支部（予算：690千円 決算：332千円） ①第44回芸能発表会（6/2） ②第44回文化祭（11/3） 4. 内子町文化協会小田支部（予算：466千円 決算：422千円） ①小田の郷ふるさとまつり（11/2～11/3） 実行委員会主催 ②小田えびね展（4/20～4/21） 5. 自治センター・自治会等 ①内子東自治センターまつり（予算：166千円 決算：166千円） ②大瀬農業祭・柿まつり 11/3（予算：75千円 決算：56千円） ③第9回内子町小・中学校俳句大会（予算：144千円 決算：141千円） ④（五自セ）舞台表現ワークショップ（予算：909千円 決算：894千円） ⑤（五自セ）モノづくりワークショップ（食品サンプル・木工）（予算：300千円 決算：298千円） ⑥（五自セ）洋画家中川八郎絵画展（予算：154千円 決算：154千円）					
事業の効果等		「地域こども文化体験教室」「内子小・中学校俳句大会」などに取り組み、子どもたちに文化体験の機会を提供することができた。また、大人への文化体験の機会として令和4年度から実施している「うちこ文化月間」では、体験参加者が体験後に団体に加入する例も見られ、文化協会の会員獲得の機会となっている。 また、今年は、五十崎自治センター開館30周年となることから、舞台芸術の振興や和紙を代表とするモノづくりの五十崎の理解促進、及び明治の洋画家、中川八郎絵画展を実施し、郷土出身の偉人を紹介することができた。					
自己評価		B					
課題・問題点		年々過疎化等により出展者及び参加者の減少・高齢化が目立つ部門やまつりがある。新規会員の確保や新規事業の取り組みが必要である。					
外部評価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		自治・学習課					
主 要 施 策		文化活動の促進と文化財の保護					
個別事業・施策名		ふるさと教育の促進及び文化財の保護と活用				事業年度	6
事業区分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行状況	当年度	予算額	8,270千円	決算額	8,053千円	執行率	97.4%
	前年度	予算額	2,579千円	決算額	2,211千円	執行率	85.7%
目 的		暮らしに根ざした文化を創造し、文化に親しむ活動を促進する。 また郷土の文化財の発掘と保護に努め、その活用を図るとともに、伝承文化の保存発展に取り組む。					
事業の実施状況		1. 文化財保護 ○文化財保護審議会の開催 第1回：7月10日（水）、第2回：2月14日（金） （1）町指定文化財の協議 調査を経た「愛宕山奉納相撲場跡」（中川）の指定について審議し、新たに有形民俗文化財として指定することがふさわしいと教育委員会へ答申（令和7年3月25日教育委員会告示） （2）文化財の保存・活用に関わる協議 ・文化財パトロール員報告に基づく天然記念物協議 ・周知の埋蔵文化財包蔵地や四国遍路道の情報共有 ・高昌寺の廻廊屋根葺き替え、および弓削神社の太鼓橋屋根改修工事の補助金交付 ○町指定史跡「龍王城跡」景観整備（周辺樹木の伐採に伴い龍王城跡の試掘調査実施） ○令和7年度～3か年計画の内子町内遺跡発掘調査等事業計画の策定 ○町蔵資料の整理（小田森林鉄道関係、元小田郷土資料課収蔵古文書など） 2. 文化活動 ○令和6年度講座「ふるさと学のススめ」を実施 11人/15人/7人、延べ33人受講 第1回9月28日（土）ふるさと愛媛出張講座①「昭和の内子町の産業～内子・大瀬・五十崎編」講師：愛媛県まなび推進課研究科 須之内智彦氏 第2回10月27日（日）「内子を通る遍路道の歴史的価値について」講師：愛媛大学法文学部（四国遍路・世界の巡礼研究センター長）胡光氏 第3回11月16日（土）ふるさと愛媛出張講座②「昭和の内子町の産業～小田編」講師：愛媛県まなび推進課研究科 須之内智彦氏 ○宜野座村との伝統芸能交流（宜野座村訪問） 11月30日～12月2日 内子町伝統文化継承団体連絡会役員ら23名で訪問 12月1日開催「がらん子ども芸能祭」に、内子こども狂言くらぶが出演 ○内子町無形民俗文化財保護団体交流研修会を開催（愛媛大学地域協働センター南予と共催） 11月23日（土）内子町林業センターにて28名参加 ○内子町無形文化財プロモーション動画作成（中川万歳や秋祭り等4本）					
事業の効果等		文化財については、中川の相撲場跡を有形民俗文化財と指定し、同分類としては昭和63年に指定された河内にある籠松堂以来の新たな価値づけとなった。また天然記念物の保護支援、龍王城跡の試掘調査を行い景観整備を実施することができた。郷土学習講座では、昨年度関係町民からヒアリング調査をしてまとめられた成果を県職員から報告していただき、来年度から進める四国遍路道の調査に向けた歴史的価値を知る講座内容を提供。伝統文化継承事業に関しては、姉妹町村の宜野座村へ訪問し内子の子ども狂言を披露し交流する機会を得ることができた。					
自己評価		B					
課題・問題点		文化財および伝統芸能ともに担い手不足が懸念され、町の個性となり得る文化財や貴重な地域史料・文化活動の保存と活用を進める必要がある。					
外部評価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		自治・学習課					
主 要 施 策		文化活動の促進と文化財の保護					
個別事業・施策名		内子座文楽公演の実施				事業年度	6
事業区分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行状況	当年度	予算額	2,846千円	決算額	2,844千円	執行率	99.9%
	前年度	予算額	4,533千円	決算額	4,512千円	執行率	99.5%
目的		内子座を活用し、日本を代表する伝統芸能のひとつである人形浄瑠璃「文楽」公演を開催することで、伝統文化・芸能の魅力を広く発信するとともに、町内における文化振興および担い手の育成を図り、心豊かな社会づくりに寄与する。					
事業の実施状況		内子座文楽第25回公演 開催日：〔裏ツアー〕 8月23日（金） 〔交流会〕 8月23日（金） 〔夜まち歩き〕 8月24日（土）初の試み 〔本公演〕 8月24日（土）及び25日（日） 午前の部・午後の部 計4回公演 集客人数：〔裏ツアー〕49人 〔交流会〕120人 〔夜まち歩き〕ミニ公演175人 〔本公演〕1,350人 演 目：「寿柱立万歳」、「摂州合邦辻」より合邦住家の段（午前と午後共通） 出 演 者：豊竹若太夫、竹本鑑太夫、鶴澤清介、鶴澤燕三、吉田和生、吉田玉男 計38人 前夜祭の内子座文楽を体験できる裏ツアーでは、海外からの参加者もあり定員以上の参加者数となった。また出演者との交流会においても、100人以上の大入りとなり公演への機運を高められた。 本公演は、内子座の保存修理事業が1年延期となったことで開催できた公演であったため、大きな反響を得ながら4公演を大入りで行うことができた（入場率が約99%）。前回の観劇者からの声を反映した配席の見直しや、継続して行っている和蠟燭を使った演出、内子座周辺の空き家の一時利用も行った。 総じて、内子座文楽公演実行委員会をはじめ、ボランティアの学生や商工会女性部、物販協力者など、多くの関係人口に支えられ実施することができた。					
事業の効果等		日本を代表する伝統芸能である人形浄瑠璃「文楽」を上演し、文化振興並びに観光振興・地域活性化に寄与することができた。特に初の取り組みであった「夜まち歩き」では、町内飲食店の営業協力のもと、阿波木偶箱まわし保存会協力による【でこまわし（門付け）】や、上芳我家住宅土蔵での文楽ミニ公演を開催することができ、観光振興・地域活性化に寄与したと分析する。					
自己評価		A					
課題・問題点		内子座文楽公演事業の意義を問い、引き続き実行委員体制の強化に努め、持続可能な運営体制の構築を目指す。内子座修理工事期間中でも本公演に替わる関連公演を実施できるよう検討し、地域に理解を得られる内子座文楽の在り方を探る。					
外部評価		A	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		自治・学習課					
主 要 施 策		読書活動の推進					
個別事業・施策名		読書活動の推進				事業年度	6
事業区分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行状況	当年度	予算額	719千円	決算額	707千円	執行率	98.3%
	前年度	予算額	756千円	決算額	754千円	執行率	99.7%
目 的		家庭・地域・各教育機関などと連携して子ども読書活動の推進を図るとともに、生涯にわたって本に親しみ、知的で心豊かな人間形成の場となるよう読書環境を整備する。					
事業の実施状況		1. 子ども読書活動推進計画（第四次）の推進 子ども読書活動推進委員会を年2回（5月、2月）開催し、各関係部署と協議しながら子ども読書を推進した。 2. ブックスタート 乳児健康診査時に、絵本を配布するとともに「読み聞かせ」を行い、本との出会いを図る。（奇数月に実施） 3. ブックトーク・ファミ読トーク 小・中学校や児童館・子育て支援センターに呼びかけ、親子や子どもたちに本と出会う機会を設け、本への興味関心を高める。（R6年度は35回実施）年々応募が増加している。 4. おはなし会・出前おはなし会（サロン、デイサービス） 乳幼児・児童と保護者を対象に毎週土曜日（4回/月）に開催し、読書の楽しさ大切さを伝える。 5. 読書感想文の募集 読書感想文を書くことにより感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにすることを目的に実施 ・内子町読書感想文 応募時期 令和6年7～10月初旬 応募点数 各学校代表作 小学校35点 中学校16点 高校・一般12点 各部門最優秀1点、優秀1点、佳作2点を選考 6. 子ども読書マラソン 年間4回開催。日本十進分類法から0～9番の本を各一冊読書する。 小学生10冊、中学生・高校生2冊、一般5冊を目標に実施。申込者444人、達成者343人。 7. 読書活動研究大会や文学講座の開催 ・読書活動研究会開催 11/24（共生館） ・文学講座（前期現代文学、後期古典文学）：村山洋子先生（5～3月） 8. ファミ読カード・ポップの募集 ・わたしのおすすめ本をカードやポップを使って紹介するファミ読推進事業を実施した。 ・4月～1月まで募集し33点の応募があり、作品は、館内に本とともに展示。家族ぐるみで読書に親しみ家庭読書の習慣化を目指す。					
事業の効果等		子ども読書活動推進計画（第四次）も各機関ともに発達段階に応じた取組計画を立案し特色ある取組の推進ができた。 ・読書マラソンの定着による申し込み、達成者の増加 ・ファミ読トーク、図書館見学による新規利用者の獲得					
自己評価		B					
課題・問題点		読書グループ及び読書会の高齢化による会員減少。					
外部評価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		自治・学習課					
主 要 施 策		社会体育の振興					
個別事業・施策名		スポーツ活動の振興及び社会体育への町民総参加の促進				事業年度	6
事業区分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行状況	当年度	予算額	4,300千円	決算額	3,539千円	執行率	82.3%
	前年度	予算額	3,428千円	決算額	2,927千円	執行率	85.4%
目的		余暇の活動と体力づくりを推進し、町民一人一人が健康で文化的な生活が営めるようスポーツ・レクリエーション活動の振興を図る。また、各競技種目における町内アスリートの実力・意識の向上を図る。					
事業の実施状況		1. 四国アイランドリーグplus公式戦（7月6日 378名） 2. 第18回内子町子供相撲大会（8月8日 71名） 3. 第18回内子町駅伝競走大会（1月19日 439名）					
事業の効果等		1. 四国アイランドリーグplus公式戦では、スポ少の生徒を中心にプロ野球選手との交流の場を設けることができ、プロの技術を間近で感じていただくことができた。 2. 各学校、大会に向けて練習に励んでいただき、大会当日はとても白熱した試合が繰り広げられた。相撲を通じて各学校団結力が深まり、スポーツの楽しさや礼儀作法を学んでいただけたのではないかと思います。 3. ゲストランナーとして土佐礼子氏、神奈川大学の太田歩夢氏を迎え、町民の方と交流を深めていただき、多くの方に喜んでいただいた。太田歩夢氏は元箱根ランナーとして素晴らしい走りをしていただき、上位のランナーの方たちは刺激のある走りであったのではないかと思います。大変盛り上がった大会となった。					
自己評価		B					
課題・問題点		人口減少社会における児童・生徒数減少やスポーツ人口の減が大きな課題であり、今後の事業計画や準備を確実に実施できる支援体制の構築が必要である。					
外部評価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		自治・学習課																																								
主 要 施 策		社会体育の振興																																								
個別事業・施策名		体育施設の整備				事業年度	6																																			
事業区分		町単独事業		国県支出事業		その他																																				
予算執行状況	当年度	予算額	37,107千円	決算額	34,274千円	執行率	92.4%																																			
	前年度	予算額	29,431千円	決算額	27,389千円	執行率	93.1%																																			
目的		施設を適切に維持管理することにより、町民等への憩いの場の提供や健康増進、各種体育事業を通じた交流、技術の向上等を図りながら地域振興に寄与する。																																								
事業の実施状況		1. 社会体育施設の修繕 2. 城の台公園の多目的広場・テニスコート・体育館等の申込受付や維持管理 3. 参川地区体育館の維持管理、参川プールの維持管理 4. 内子スポーツセンター、トレーニング室の申込受付や維持管理 5. 五十崎体育館の申込受付や維持管理 6. 運動公園の維持管理 7. 施設照明のLED化 【照明LED化事業実施状況一覧】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業年度</th> <th>施設名</th> <th>事業費(千円)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>内子小グラウンド(屋外)</td> <td>5,940</td> <td>(10年リース 49,500円/月) (自治・学習課所管)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">令和3年度</td> <td>内子スポーツセンター(屋内)</td> <td>3,102</td> <td>(10年リース 25,850円/月) (自治・学習課所管)</td> </tr> <tr> <td>内子中体育館(屋内)</td> <td>3,762</td> <td>(10年リース 31,350円/月) (学校教育課所管)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">令和4年度</td> <td>天神小体育館(屋内)</td> <td>4,092</td> <td>(10年リース 34,100円/月) (学校教育課所管)</td> </tr> <tr> <td>大瀬小体育館(屋内)</td> <td>3,459</td> <td>(10年リース 28,820円/月) (学校教育課所管)</td> </tr> <tr> <td>五十崎体育館(屋内)</td> <td>9,280</td> <td>(10年リース 77,330円/月) (自治・学習課所管)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">令和6年度</td> <td>城の台公園体育館・テニスコート</td> <td>18,560</td> <td>(10年リース 154,660円/月) (自治・学習課所管)</td> </tr> <tr> <td>五十崎小グラウンド</td> <td>7,683</td> <td>(10年リース 64,020円/月) (自治・学習課所管)</td> </tr> <tr> <td>石畳小体育館</td> <td>2,704</td> <td>(10年リース 22,528円/月) (学校教育課所管)</td> </tr> </tbody> </table>						事業年度	施設名	事業費(千円)	備考	令和2年度	内子小グラウンド(屋外)	5,940	(10年リース 49,500円/月) (自治・学習課所管)	令和3年度	内子スポーツセンター(屋内)	3,102	(10年リース 25,850円/月) (自治・学習課所管)	内子中体育館(屋内)	3,762	(10年リース 31,350円/月) (学校教育課所管)	令和4年度	天神小体育館(屋内)	4,092	(10年リース 34,100円/月) (学校教育課所管)	大瀬小体育館(屋内)	3,459	(10年リース 28,820円/月) (学校教育課所管)	五十崎体育館(屋内)	9,280	(10年リース 77,330円/月) (自治・学習課所管)	令和6年度	城の台公園体育館・テニスコート	18,560	(10年リース 154,660円/月) (自治・学習課所管)	五十崎小グラウンド	7,683	(10年リース 64,020円/月) (自治・学習課所管)	石畳小体育館	2,704	(10年リース 22,528円/月) (学校教育課所管)
事業年度	施設名	事業費(千円)	備考																																							
令和2年度	内子小グラウンド(屋外)	5,940	(10年リース 49,500円/月) (自治・学習課所管)																																							
令和3年度	内子スポーツセンター(屋内)	3,102	(10年リース 25,850円/月) (自治・学習課所管)																																							
	内子中体育館(屋内)	3,762	(10年リース 31,350円/月) (学校教育課所管)																																							
令和4年度	天神小体育館(屋内)	4,092	(10年リース 34,100円/月) (学校教育課所管)																																							
	大瀬小体育館(屋内)	3,459	(10年リース 28,820円/月) (学校教育課所管)																																							
	五十崎体育館(屋内)	9,280	(10年リース 77,330円/月) (自治・学習課所管)																																							
令和6年度	城の台公園体育館・テニスコート	18,560	(10年リース 154,660円/月) (自治・学習課所管)																																							
	五十崎小グラウンド	7,683	(10年リース 64,020円/月) (自治・学習課所管)																																							
	石畳小体育館	2,704	(10年リース 22,528円/月) (学校教育課所管)																																							
事業の効果等		一般利用について、地域住民のスポーツ機会の向上や健康増進効果につながっている。																																								
自己評価		B																																								
課題・問題点		利用を希望する団体が増加している施設では調整が必要となっている。また、年々施設の老朽化が進んでおり、細かい箇所を随時修繕している状況である。 法規制により水銀灯が生産中止となり新規購入できないことから、屋内体育施設、屋外夜間照明施設のLED化を計画的に進める必要がある。																																								
外部評価		B	<コメント> 継続																																							

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載 (A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない)

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		自治・学習課					
主 要 施 策		人権・同和教育の深化充実					
個別事業・施策名		人権教育協議会の育成及び支援				事業年度	6
事業区分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行状況	当年度	予算額	3,309千円	決算額	2,892千円	執行率	87.4%
	前年度	予算額	2,599千円	決算額	2,133千円	執行率	82.1%
目 的		同和問題をはじめとするあらゆる差別を解消し、すべての人の人権が尊重され差別のない明るく心豊かなまちを実現することを目的とする。					
事業の実施状況		【研修会の開催、参加】 1. 四国地区人権教育研究大会（7/4～5：高知市：18名） 2. 第1回人権・同和教育推進リーダー研修会兼人権・同和教育夏期研修会（7/29：共生館：143名） 3. 地域社会人権・同和教育リーダー研修会（8/21：西予市：5名） 4. 人権フォーラム（8/24：八幡浜市：7名） 5. 南予地区人権・同和教育研究協議会（10/29：宇和島市：28名） 6. 愛媛県人権・同和教育研究大会（11/12：松山市：70名） 7. 内子町管内事業所人権・同和教育研修会（11/28：共生館：56名） 8. 福祉館まつり 11/9 9. 全国人権・同和教育研究大会（11/30～12/1：久留米市：14名） 10. 社会教育における人権教育実践交流学習会（2/20：砥部町：4名） 11. 内子町人権・同和教育研究大会（3/1：スバル：320名） 12. 内子町職員人権学習会（3/18 町民会館：29名） 【町民意識調査】 1. 町民意識調査を実施し、調査結果を広報及びHPで周知 【啓発活動】 1. 広報うちこへの啓発記事掲載（2回） 【身元調査お断り運動の展開】 1. 23年度作成の身元調査お断りステッカーを随時配布					
事業の効果等		教育関係者はもちろん、自治会や事業所、行政、各種団体機関などに対し、同和問題をはじめとする、様々な人権問題に関する研修の機会を提供することにより、人権に対する知的理解や意識の向上が見られた。また、部落差別解消推進法の施行を受け、各研修会で学習を深めた。町民意識調査を実施した結果、差別的言動への対処について「自分で説明する」と回答した比率が高くなっているなど、人権啓発活動において一定の効果を上げていることが分かった。					
自己評価		B					
課題・問題点		障害者差別解消法・ヘイトスピーチ対策法・部落差別解消法の施行を受け、人権問題を自分の課題として捉えることができる学習会の開催や、部落差別解消に向けた教育のみにとどまらない取り組みの継続が必要。また、リーダー（指導者）育成のためにも、人権啓発を扱う部署の強化が必要となる。また、町民意識調査の結果から、部落差別解消推進法の認知度は減少傾向にあるため、具現化に向けた更なる周知、取り組みが必要。					
外部評価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		自治・学習課					
主 要 施 策		人権・同和教育の深化充実					
個別事業・施策名		地域ぐるみ人権・同和教育の推進				事業年度	6
事業区分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行状況	当年度	予算額	1,268千円	決算額	936千円	執行率	73.8%
	前年度	予算額	1,153千円	決算額	761千円	執行率	66.0%
目 的		同和問題をはじめとするあらゆる差別を解消し、すべての人の人権が尊重され差別のない明るく心豊かなまちを実現することを目的とする。					
事業の実施状況		【自治会・小グループ・地区別での学習会の開催】 (予算:681千円 決算:416千円) 1. 自治会人権学習会(7月～3月:37自治会:649名) 2. 小グループ(サロンや女性団体等)人権学習会 (4月～3月:19団体:224名) 3. 自治センターごとの地域ぐるみ人権・同和教育講師団の学習会の開催 【教育集会所事業】 1. あけぼの集会所人権学習会(6月～1月:8回:233名) (予算:120千円 決算:120千円) 2. 今生集会所人権学習会(9・2月:2回:40名) (予算:203千円 決算:203千円) 【人権まつり・集会等】 1. 大瀬地区人権まつり(12/8:212名) (予算:264千円 決算:197千円) 2. 各学校、幼稚園、保育園での公開授業や講演会、同和教育参観日の開催など。					
事業の効果等		自治会や高齢者が集うサロン等を通して、様々な人権問題について考えてもらうための機会を提供できた。こうした地域ぐるみでの学習会が内子町の人権教育推進の特徴となっている。 大瀬地区人権まつりは、参加者は前年度に比べ約20名増え、内容としても好評であった。					
自己評価		B					
課題・問題点		参加者拡大の工夫は行っているが、役員中心の固定化がみられる。「人権まつり等」においては、児童、生徒数の減少により活動の制約が見受けられる。					
外部評価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載 (A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない)

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		自治・学習課					
主 要 施 策		社会環境浄化と青少年の健全育成					
個別事業・施策名		健全な家庭づくりの推進 青少年健全育成の推進のための事業				事業 年度	6
事 業 区 分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行 状 況	当年度	予算額	3,928千円	決算額	3,459千円	執行率	88.1%
	前年度	予算額	3,476千円	決算額	2,618千円	執行率	75.3%
目 的		未来の内子町を担う青少年の健全育成を図るため、仲間と交流しながら自然とふれあい楽しさや喜びを味わう学習の機会を提供する。					
事業の実施状況		1. 青少年健全育成講演会（予算：1,667千円 決算：1,667千円） (5/14 町内中学生対象 講師 大山加奈さん) 2. 内子町青少年補導委員連絡協議会総会（6/26） 3. 第23回子どもフェスティバル（5/18）（予算：440千円 決算：284千円） 4. 内子自治センター（予算：384千円 決算：355千円） ①内子ふれあい夏季キャンプ（8/1,2） ②夏休みものづくり体験教室（8/9） ③夏休み大勉強会（9/18） ④門松づくり（12/21） 5. 内子東自治センター（予算：726千円 決算：658千円） ①うちこふれあい夏季キャンプ（8/1-2） ②わんぱく学校スキー室（1/23） ③立川小学校通学合宿（6/13-15） ④ものづくり体験教室石畳小（12/10） ⑤タキビナイト（青年交流たき火体験）2/21 6. 大瀬自治センター（予算：196千円 決算：186千円） ①通学合宿6/20～22 ②夏キャンプ8/2 ③大瀬エコセミナー（9回） 7. 五十崎自治センター（予算：325千円 決算：143千円） ①ジョギング大会 ②野鳥観察会 ③水生生物観察会 ④地域文化イベント（2回） ⑤ボードゲーム講座 ⑥川漁体験 8. 小田自治センター（予算：190千円 決算：166千円） ①夏のエコキャンプ（8/2） ②スキー・スノーボード教室（1/7）					
事業の効果等		多くの事業が実施できた。子どもたちが各種行事や事業に参加することで、伝統文化や地域を知り、年代の違う子どもが接することで仲間意識が生まれ、明るく伸び伸びと心身ともに豊かな人間性を育むことができた。					
自己評価		B					
課題・問題点		最小の費用で最大の効果を挙げる工夫や事業の充実。また、各種事業に携わる地域人材との連携を密にした活動を行うことが求められている。					
外部評価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		自治・学習課					
主 要 施 策		社会教育の条件整備 自治センターの充実強化					
個別事業・施策名		自治センター及び自治会館設備の整備充実				事業 年度	6
事 業 区 分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行 状 況	当年度	予算額	253,685千円	決算額	238,272千円	執行率	93.9%
	前年度	予算額	203,839千円	決算額	198,797千円	執行率	97.5%
目 的		生涯学習や地域活動の拠点であり、避難収容施設でもある各自治センター及び自治会館等における施設の維持管理、更新を計画的に実施する。					
事業の実施状況		各自治センターや各自治会等からの要望について、優先順位をつけて修繕・整備を行った。また、自治会館建設に向け、工事設計を行った。 1. 社会教育総務費の修繕（修繕費 予算:2,803千円 決算:2,801千円） ①内子自治センター高圧機器改修工事 (1,054千円) ②南山自治会館石積修繕工事 (660千円) ほか5件 2. 各自治センターの関連（予算:250,507千円 決算:235,471千円） 【5年度繰越分】（予算:2,008千円 決算:1,936千円） （1）工事請負費（1,936千円） ①内子東自治センター事務所棟排煙窓改修工事 (1,936千円) 【6年度分】（予算:248,499千円 決算:233,535千円） （1）委託料（予算:28,799千円 決算:28,799千円） ①大瀬自治センター坂路測量設計業務 (1,474千円) ②大瀬自治センター解体工事監理委託業務 (7,150千円) ③大瀬自治センター省エネルギー認証委託業務 (1,980千円) ④大瀬自治センター地質調査委託業務 (2,843千円) ⑤東沖自治会館敷地造成に伴う測量設計業務 (2,482千円) ⑥小田自治センター空調設備改修工事設計委託業務 (9,240千円) ⑦立石自治会館新築工事監理委託業務 (1,980千円) ⑧小田分校旧体育館解体工事設計委託業務 (1,650千円) （2）工事請負費（予算:219,700千円 決算:204,736千円） ①程内自治会館トイレ改修工事 (5,541千円) ②大瀬自治センター解体工事 (80,553千円) ③五十崎自治センター高圧受電設備工事改修 (13,343千円) ④旧柿原自治会館解体工事 (3,385千円) ⑤立石自治会館新築建築主体工事 (77,770千円) ⑥立石自治会館新築設備工事 (22,330千円) ほか4件 3. 附帯設備整備事業補助金（該当なし。予算:375千円 決算:0千円）					
事業の効果等		施設等の老朽化も進み修繕の要望が毎年増加しているが、緊急性を考慮して計画的に施設の改修を行っている。 立石自治会館新築工事を行うとともに、柿原自治会館及び大瀬自治センターの解体を行った。					
自己評価		B					
課題・問題点		自治センター・自治会館など、老朽化等により改修すべき施設は増加の一途である。出来るだけ国・県の補助金等を活用しながら、計画的に進める必要がある。自治センターや自治会館の耐震化、改修についても進めているが工事費が高騰しており、進捗に時間を要する。					
外部評価		B	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）

内子町教育委員会 事務事業点検・評価 施策事業別評価票

担 当 課 名		自治・学習課					
主 要 施 策		社会教育の条件整備 図書情報館の整備充実					
個別事業・施策名		図書情報館の整備充実				事業年度	6
事業区分		町単独事業		国県支出事業		その他	
予算執行状況	当年度	予算額	10,332千円	決算額	10,330千円	執行率	100.0%
	前年度	予算額	9,019千円	決算額	8,880千円	執行率	98.5%
目 的		町民への読書サービス・読書活動の活性化を図るため、図書情報館の整備充実と図書館職員の資質の向上に努める。					
事業の実施状況		1. 内子町図書情報館事業の推進 ①資料提供サービス ②乳幼児・児童・青少年へのサービス ③高齢者・図書情報館利用に支障のある人へのサービス ④レファレンス・サービス ⑤郷土資料サービス ⑥文化活動サービス⑦視聴覚資料提供サービス ⑧相互貸借・遠隔地返却サービス ⑨研修・講座 ・ボランティア育成講座 ・ファミ読ふれあい研修会 ・絵本セラピー 2. 図書情報館の活用 2階ギャラリーで町内の芸術家の作品と本をコラボした企画展を毎月実施 3. 図書購入 ①内子町図書情報館（本館） 図書受入：1,793冊 AV受入：40点 利用者：22,432人 ※参考 ②五十崎自治センター（分館） 図書受入：159冊 AV受入：0点 利用者：406人 ③小田自治センター（分館） 図書受入：425冊 AV受入：2点 利用者：1,179人					
事業の効果等		・「りんごの棚」の設置による、多様な利用者の読書支援。 大活字本、LLブック、点字資料、手話絵本に加えて子ども向け大活字本の充実。 ・ファミ読ふれあい研修会の継続と定着					
自己評価		A					
課題・問題点		利用者の増加に対して、貸出冊数、貸出人数は減少している。これは、資料の持ち帰りよりも滞在型利用や情報収集の場としての利用が増加したと分析する。					
外部評価		A	<コメント> 継続				

* 内部評価・外部評価欄は、右記区分を記載（A:順調である B:概ね順調である C:やや順調である D:順調でない）